

連合静岡

「2023 年個別貸金実態調査」報告

連合静岡

目 次

調査実施の概要.....	1
Ⅰ. 連合静岡全体の概況	5
1. 2023 年調査における賃金実態	5
2. 年齢別賃金階級別にみた人員分布.....	10
3. 賃金特性値とは.....	16
4. 回帰分析とは	17
Ⅱ. 年齢ポイント別平均賃金.....	19
1. 性別	19
2. 業種別	20
3. 規模別	21
4. 地域別	22
5. 学歴別	23
6. 2022 年調査との比較.....	24
Ⅲ. 「賃金構造基本統計調査・静岡」の結果	27
1. 賃金構造基本統計調査にみる静岡の概況.....	27
2. 性別	30
3. 業種別・製造業の場合	31
参考 非正規社員組合員の賃金	32

調査実施の概要

1. 連合静岡「個別賃金実態調査」とは

本調査の目的は、①主要な労働条件である賃金水準について「個別賃金実態調査」を通じて地域に波及できる精度の高い数値を示すことにより「組合員 20 万人の賃金地図を作ろう」運動を社会運動化すること、②「組合員 20 万人の賃金地図を作ろう」が社会運動として認識される事で労働組合の存在意義を高め、1,000 万連合に向けた組織拡大の一翼を担い、働くことを軸とする安心社会の創造に繋げることを目的として、取り組んでいる調査である。

なお、本調査は、「構成組織を通じ毎年9月末日を期限として」実施され、当年12月提出分で集計および分析を行っている。

2. 調査項目およびデータの整理

調査項目は、「性別（男性、女性）」、「学歴（中卒、訓練校卒、高卒、専門学校卒、短大・高専卒、大卒、大学院修了）」、「年齢」、「勤続年数」、「基本賃金」、「所定内賃金」の6項目である。ただし、集計にあたっては、連合『地域ミニマム運動：個別賃金実態調査』との整合性を鑑み、下記の項目についてデータの整理と補完を行っている。

○学歴構成は、「中卒」、「高卒（訓練校卒含む）」、「短大・高専卒（専門学校卒含む）」、「大卒・大学院修了」、「不明」の5区分に再整理した。

○勤続年数の記入がないケースについては、『地域ミニマム運動・個別賃金実態調査』から算出した年齢ポイント別平均勤続年数を代入した。

○賃金額の集計には、「所定内賃金」を活用しているが、所定内賃金のないケースについては「基本賃金」を代用した。

○参加組合の属性データから、業種を3区分（製造業、交通・運輸業、商業・サービス業）、企業規模を4区分（99人以下、100～299人、300～999人、1,000人以上）、地域を4区分（東部、中部、西部、その他）にそれぞれ分類し、集計を行うこととした。

	業種区分
製造業	金属、化学・繊維、食品(以上、3業種)
交通・運輸業	(a:生コン製造販売輸送、b:ハイヤー・タクシー、c:トラック輸送、d:鉄道バス、e:その他)
商業・サービス業	資源・エネルギー、サービス一般(公務)、情報・出版、商業・流通、保険・金融、建設・資材・林産(以上、6業種)

○本報告で用いている平均値とは、とくにことわりのない限り「単純平均」によって算出した数値である。

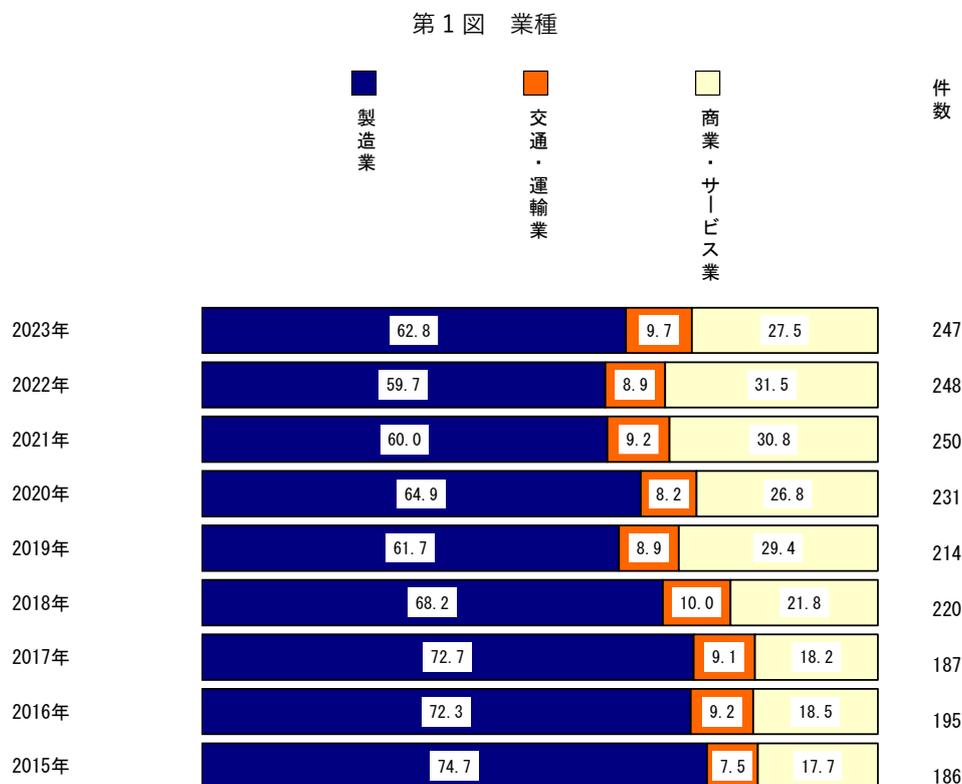
3. 集計ならびに分析作業の委嘱

本報告は、連合静岡中小労働対策局との議論に基づいて、労働調査協議会（略称：労調協）が作成している。

4. 2023年度の取り組み状況

集計対象となった組合数は247組合、組合員数は110,385人である。前年の2022年調査(248組合、105,268人)と比べると、組合数は1組合減少しているが、組合員数は5,117人増加している。

参加組合の業種構成は、「製造業」が62.8%を占め、以下「商業・サービス業」が27.5%、「交通・運輸業」が9.7%となっている(第1図)。



なお、『令和5年静岡県労働組合基礎調査結果』(令和5年6月30日現在)によれば、静岡県内の労働組合数ならびに労働組合員数は1,133組合、283,023人(男性:189,576人、女性:93,447人)であり、うち東部が363組合、73,133人、中部が416組合、87,965人、西部が354組合、121,945人となっている(推定雇用者数は1,713千人)。また、上記1,151組合のうち、連合加盟組合数は639組合、215,699人である。

なお、上記連合加盟組合に占める今回調査の集計対象は、組合数では38.7%にとどまるものの、組合員数では51.2%に及び、半数を上回る組合員を網羅している。

令和4年の組織状況(労働組合数:1,151組合、労働組合員数:287,712人)と比べると、労働組合数(18組合減)、組合員数(4,689人減)ともに減少している。

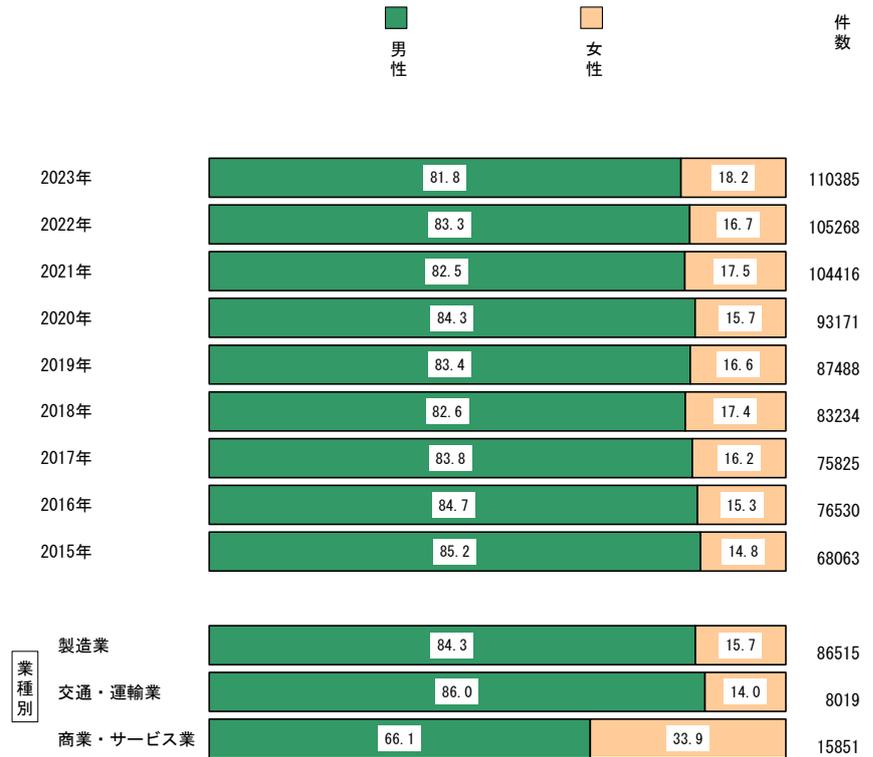
この他、パートタイム労働者の労働組合員数は23,744人(うち、女性が19,599人)であり、全労働組合員数(283,023人)の8.4%を占めている(令和4年パートタイム労働組合員数:22,619人、対全組合員数比:7.9%)。

5. 集計対象者の構成

性別構成は、「男性」が 81.8% (90,321 人)、「女性」が 18.2% (20,064 人) を占める (第 2 図)。

業種別では、商業・サービス業で「女性」が 33.9%と、製造業 (15.7%) や交通・運輸業 (14.0%) を大きく上回る構成となっている。

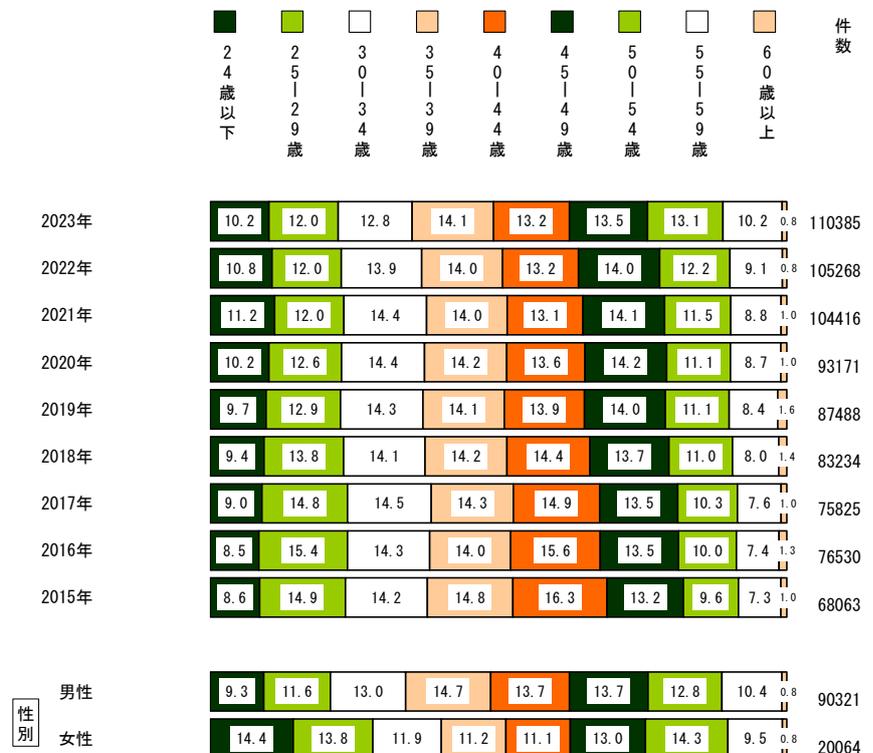
第 2 図 性別



年齢構成は、24 歳以下から 50 代後半までの各年齢層が 1 割台前半で並び、平均年齢は 39.8 歳 (平均勤続年数:16.0 年) である (第 3 図)。

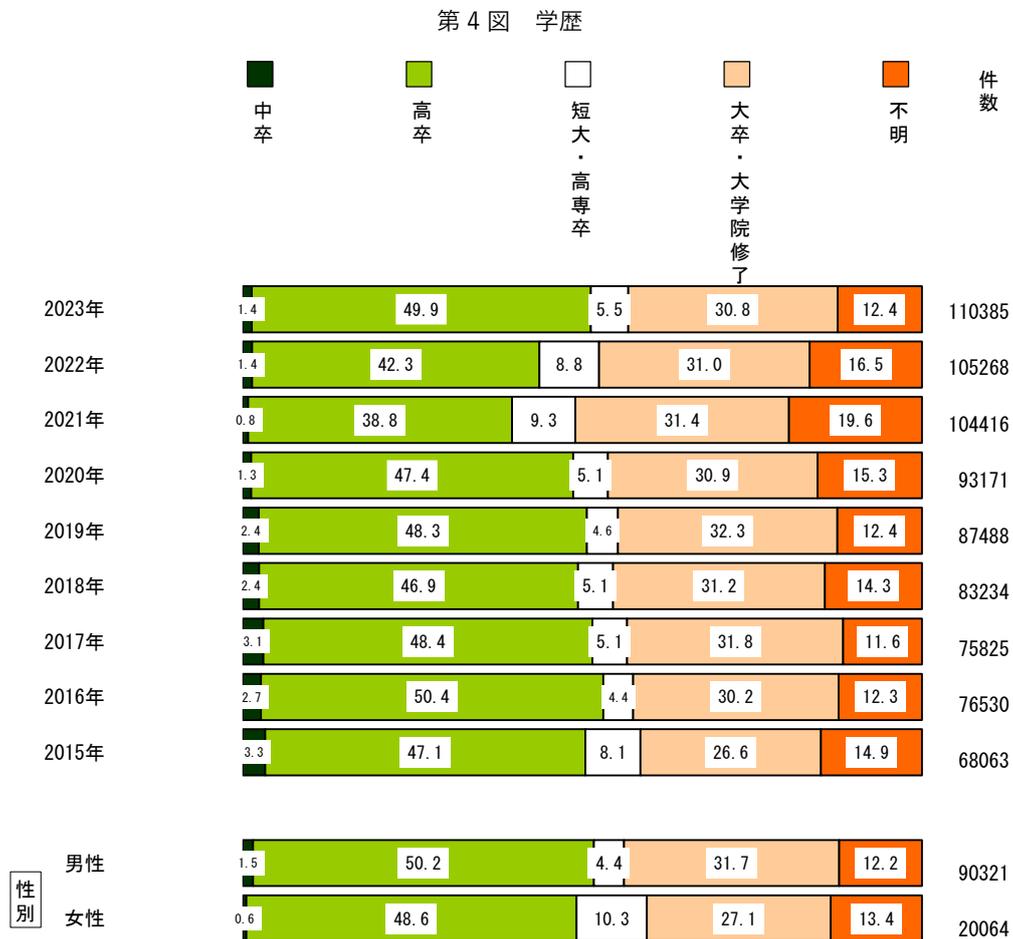
性別では、女性で 29 歳以下層がほぼ 3 割を占めることもあり、平均年齢が 38.9 歳と、男性 (40.0 歳) に比べてやや若い年齢構成となっている。

第 3 図 年齢



また、学歴構成をみると、「高卒」が49.9%で最も多く、次いで「大卒・大学院修了」が30.8%、以下「短大・高専卒」が5.5%、「中卒」が1.4%を占めている（第4図）。

男女ともに「高卒」が半数前後を占める一方、男性では女性に比べて「大卒・大学院修了」、女性では男性に比べて「短大・高専卒」がいずれも多くなっている。



Ⅰ. 連合静岡全体の概況

1. 2023年調査における賃金実態

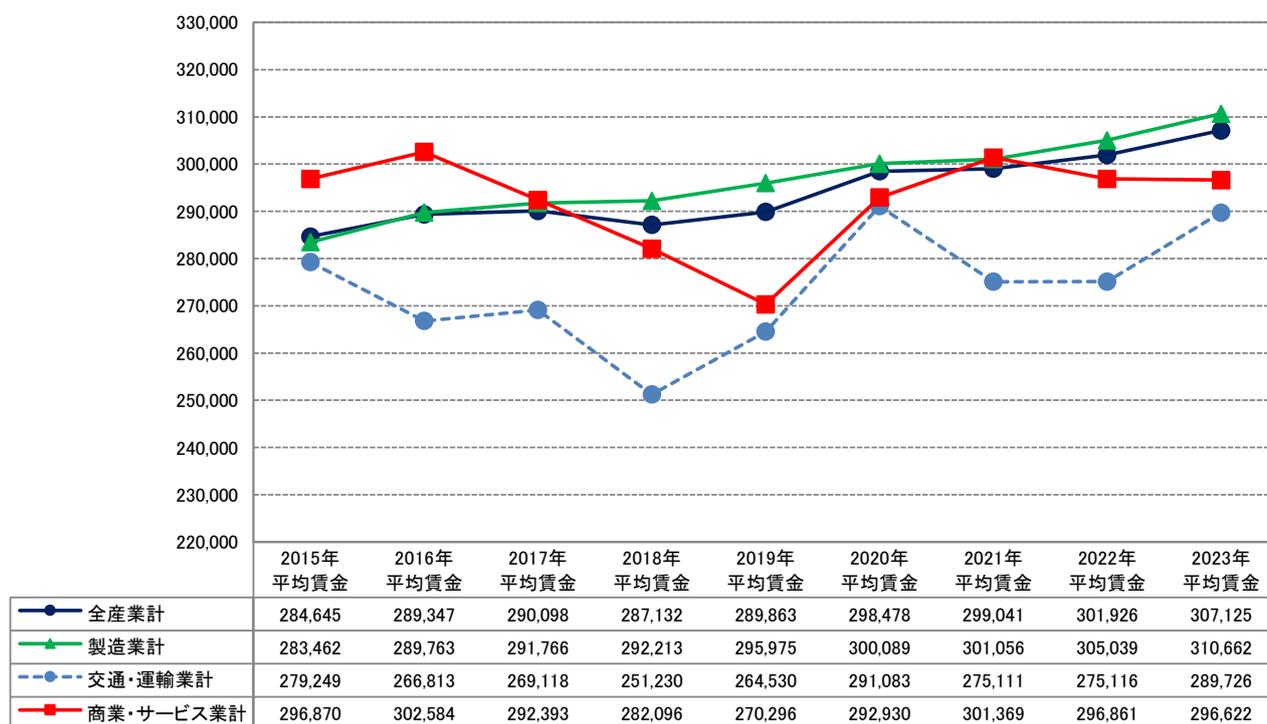
(1) 全産業計および業種別

2023年調査における全産業計の平均賃金額は307,125円で、2022年調査(301,926円)に比べて5,199円上昇(名目賃金上昇率:1.7%)している(第Ⅰ-1図)。

賃金上昇率に着目すると、新型コロナウイルス感染症(以下、新型コロナ)の感染拡大が猛威を振るい、深刻な景気後退をもたらした2020年調査から2021年調査までが0.2%、新型コロナの感染拡大が続く中、働き方の柔軟化や多様化が進行した2021年調査から2022年調査までが1.0%、感染拡大が徐々に収束に向かう中、物価上昇が持続的に続いた2022年調査から2023年調査(今回調査)の上昇率が1.7%と、小幅ではあるが上昇傾向にある。

ただし、この1年間(2022年から2023年までの年平均)の消費者物価指数(持家の帰属家賃を除く総合)は3.8%と、前年(3.0%)の水準をも上回っており、賃金上昇率は物価の上昇に追いつかず、依然として賃上げ実感が十分に得られない状況が続いている。

第Ⅰ-1図 平均賃金額の推移(単位:円)



業種別の平均賃金額は、「製造業」が 310,662 円 (2022 年調査:305,039 円)、「交通・運輸業」が 289,726 円 (同:275,116 円)、「商業・サービス業」が 296,622 円 (同:296,861 円) である (第 I-1 表)。

2022 年調査と比べると、製造業や交通・運輸業で平均賃金額が上昇しているものの、商業・サービス業はやや低下している。

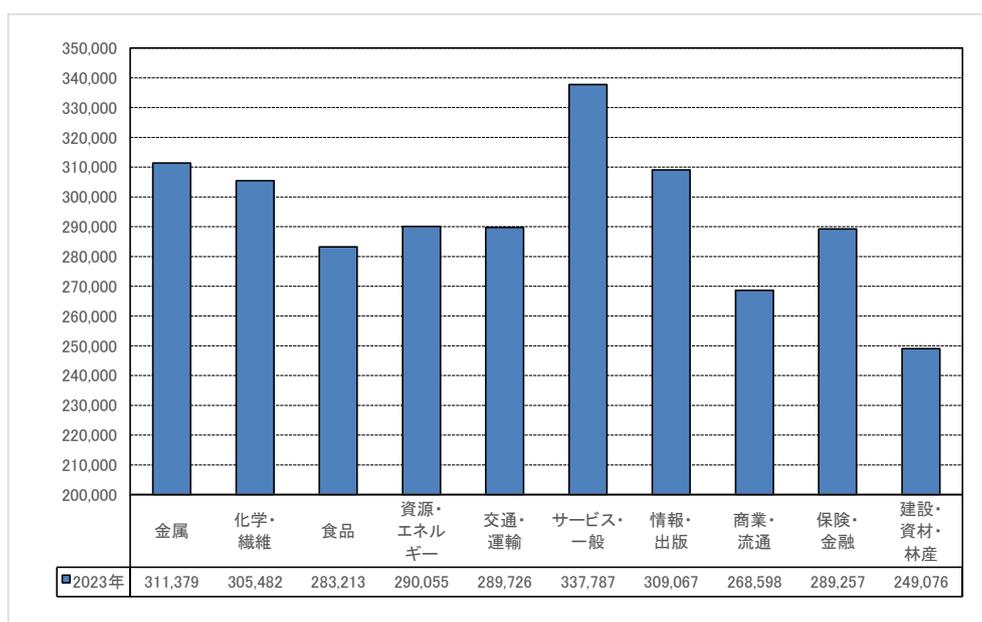
第 I-1 表 業種別平均賃金額

	人数	平均年齢	平均勤続年数	2023年 平均賃金	2022年 平均賃金	2021年 平均賃金	2020年 平均賃金	2019年 平均賃金	2018年 平均賃金	2017年 平均賃金	2016年 平均賃金	2015年 平均賃金	2023年 -2022年
全産業計	110,385	39.8	16.0	307,125	301,926	299,041	298,478	289,863	287,132	290,098	289,347	284,645	5,199
男性	90,321	40.0	16.3	315,135	309,043	306,241	305,557	298,020	295,709	297,364	295,697	290,703	6,092
女性	20,064	38.9	14.8	271,070	266,308	265,153	260,464	248,747	246,436	252,587	254,174	249,774	4,762
製造業計	86,515	40.0	16.8	310,662	305,039	301,056	300,089	295,975	292,213	291,766	289,763	283,462	5,623
男性	72,947	40.1	16.9	318,084	312,217	308,461	306,913	302,787	299,023	298,737	296,388	289,714	5,867
女性	13,568	39.1	16.2	270,759	263,289	259,730	259,388	255,389	253,199	251,709	251,437	244,560	7,470
交通・運輸業計	8,019	38.8	14.0	289,726	275,116	275,111	291,083	264,530	251,230	269,118	266,813	279,249	14,610
男性	6,895	39.1	14.4	297,720	282,377	282,263	298,064	270,060	257,175	276,381	271,901	284,447	15,343
女性	1,124	37.0	11.1	240,693	230,898	228,652	237,661	215,130	211,640	219,689	216,537	221,816	9,795
商業・サービス業計	15,851	39.6	13.0	296,622	296,861	301,369	292,930	270,296	282,096	292,393	302,584	296,870	-239
男性	10,479	40.1	13.4	306,060	302,271	308,142	301,284	285,047	303,310	302,630	310,283	304,090	3,789
女性	5,372	38.7	12.0	278,211	284,942	287,567	270,884	238,097	238,887	265,159	279,688	276,256	-6,731

注). 単位は、人数は「人」、平均年齢は「歳」、平均勤続年数は「年」、平均賃金は「円」。

第 I-2 図は、詳細な業種区分で平均賃金額をみたものであるが、最も高いのは公務や教職員が含まれる「サービス・一般」(337,787 円) で、以下「金属」(311,379 円)、「情報・出版」(309,067 円)、「化学・繊維」(305,482 円) などが続いている。一方で、最も低いのは「建設・資材・林産」(249,076 円) である。

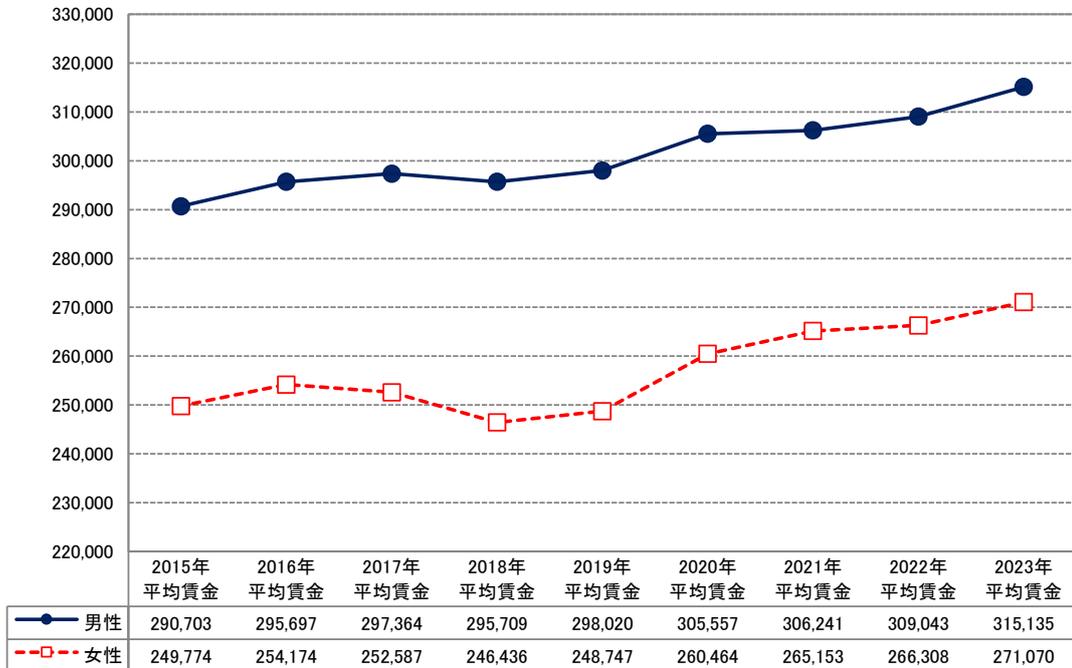
第 I-2 図 業種別平均賃金額



(2) 性別

性別では、男性の平均賃金額が 315,135 円（2022 年調査：309,043 円、対前年比 2.0%のプラス）、女性が 271,070 円（同：266,308 円、同 1.8%のプラス）である（第 1-1 表）。

第 1-3 図 性別平均賃金額の推移（単位：円）



男女間の賃金格差（男性＝100）といった点では、年齢や学歴、職種などの違いを考慮する必要があるもののこの間 85 前後で推移しており、依然として男女間の差は小さくない。

第 1-2 表 性別平均賃金額

	人数	平均 年齢	平均 勤続年数	2023年 平均賃金	2022年 平均賃金	2021年 平均賃金	2020年 平均賃金	2019年 平均賃金	2018年 平均賃金	2017年 平均賃金	2016年 平均賃金	2015年 平均賃金
全産業計	110,385	39.8	16.0	307,125	301,926	299,041	298,478	289,863	287,132	290,098	289,347	284,645
男性	90,321	40.0	16.3	315,135	309,043	306,241	305,557	298,020	295,709	297,364	295,697	290,703
女性	20,064	38.9	14.8	271,070	266,308	265,153	260,464	248,747	246,436	252,587	254,174	249,774
男性－女性				44,065	42,735	41,088	45,093	49,273	49,273	44,777	41,523	40,929
女性／男性(%)				86.0	86.2	86.6	85.2	83.5	83.3	84.9	86.0	85.9

注). 単位は、人数は「人」、平均年齢は「歳」、平均勤続年数は「年」、平均賃金は「円」。

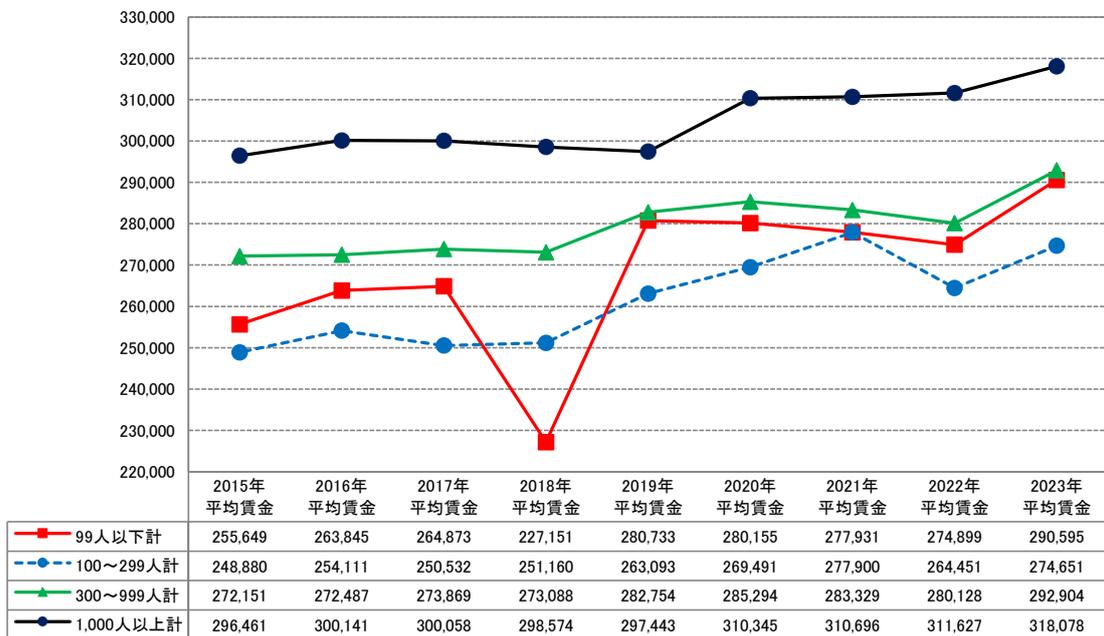
(3) 規模別

規模別（非正規社員を含めた全社従業員数）構成比は、「1,000人以上」（65.9%）がほぼ3分の2を占め、「300～999人」（18.3%）を合わせると、300人超の規模の参加組合が8割を超える（「100～299」：12.6%、「99人以下」：3.2%）。

平均賃金額は、「99人以下」が290,595円（2022年調査：274,899円）、「100～299人」が274,651円（同：264,451円）、「300～999人」が292,904円（同：280,128円）、「1,000人以上」が318,078円（同：311,627円）となっている（第1-3図、第1-2表）。

1,000人以上規模と比べると、99人以下や300～999人の規模で2万円台後半、100～299人の規模では4万円を上回る金額差が生じている。

第1-4図 平均賃金額の推移（単位：円）



第1-3表 規模別平均賃金額

	人数	平均 年齢	平均 勤続年数	2023年 平均賃金	2022年 平均賃金	2021年 平均賃金	2020年 平均賃金	2019年 平均賃金	2018年 平均賃金	2017年 平均賃金	2016年 平均賃金	2015年 平均賃金	2023年 -2022年
99人以下計	3,502	41.3	14.5	290,595	274,899	277,931	280,155	280,733	227,151	264,873	263,845	255,649	15,696
男性	2,693	41.8	14.6	294,353	279,797	283,881	287,350	287,752	229,237	269,181	267,144	261,423	14,556
女性	809	39.7	14.3	278,084	253,689	253,637	248,046	248,765	211,988	231,392	236,206	218,173	24,395
100～299人計	13,924	38.9	14.8	274,651	264,451	277,900	269,491	263,093	251,160	250,532	254,111	248,880	10,200
男性	11,391	39.1	15.2	279,338	270,122	286,463	275,507	271,221	255,481	254,636	258,584	253,493	9,216
女性	2,533	37.8	13.2	253,573	240,821	241,266	243,913	223,900	226,686	226,739	228,024	220,153	12,752
300～999人計	20,184	40.4	16.6	292,904	280,128	283,329	285,294	282,754	273,088	273,869	272,487	272,151	12,776
男性	16,438	40.7	16.9	301,679	287,627	289,867	291,702	287,916	281,576	281,297	279,398	279,720	14,052
女性	3,746	39.2	15.3	254,398	246,735	253,806	252,830	254,345	233,203	235,992	236,317	230,980	7,663
1,000人以上計	72,775	39.8	16.2	318,078	311,627	310,696	310,345	297,443	298,574	300,058	300,141	296,461	6,451
男性	59,799	40.0	16.4	326,588	318,491	317,781	317,311	306,802	308,311	307,818	306,692	302,139	8,097
女性	12,976	39.0	15.0	278,861	275,366	275,491	269,272	250,513	253,780	260,780	263,926	263,563	3,495

注) 単位は、人数は「人」、平均年齢は「歳」、平均勤続年数は「年」、平均賃金は「円」。

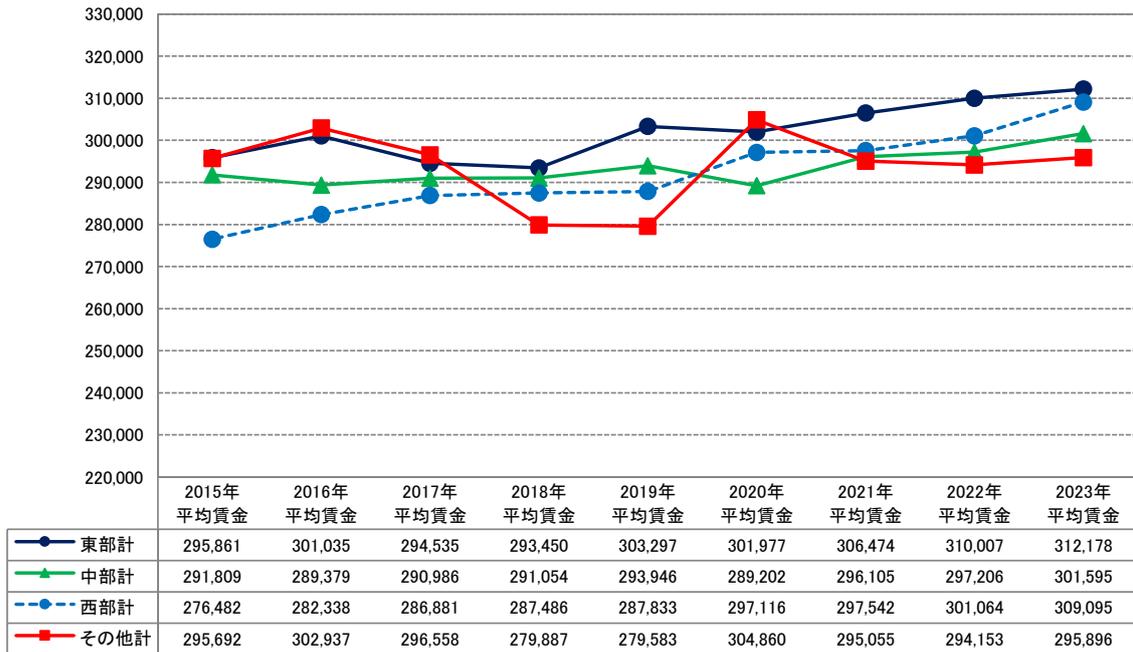
(4) 地域別

地域別構成は、「西部」が49.2%とほぼ半数を占め、次いで「東部」が26.0%、「中部」が8.7%となっている。なお、「その他」(16.1%)には、静岡県下全域に事業所等が所在するなど、上記地域区分に振りわけることが困難な組合が含まれる。

平均賃金額は、「東部」が312,178円(2022年調査:310,007円)、「中部」が301,595円(同:297,206円)、「西部」が309,095円(同:301,064円)である(第1-4図、第1-3表)。

業種構成などの違いにも留意する必要があるが、東部と中部では1万円を上回る金額差がみられる。

第1-5図 平均賃金額の推移(単位:円)



第1-4表 地域別平均賃金額

	人数	平均 年齢	平均 勤続年数	2023年 平均賃金	2022年 平均賃金	2021年 平均賃金	2020年 平均賃金	2019年 平均賃金	2018年 平均賃金	2017年 平均賃金	2016年 平均賃金	2015年 平均賃金	2023年 -2022年
東部計	28,702	41.1	17.7	312,178	310,007	306,474	301,977	303,297	293,450	294,535	301,035	295,861	2,171
男性	24,362	41.3	17.8	318,389	316,391	313,756	306,933	308,886	298,235	299,031	306,112	301,264	1,998
女性	4,340	40.1	17.2	277,313	270,189	270,113	268,941	267,070	267,011	268,356	272,803	265,089	7,124
中部計	9,608	40.3	16.3	301,595	297,206	296,105	289,202	293,946	291,054	290,986	289,379	291,809	4,389
男性	7,489	40.5	16.0	307,596	304,579	301,221	297,717	301,589	298,264	299,006	296,537	297,005	3,017
女性	2,119	39.8	17.2	280,386	267,924	278,779	256,454	261,956	260,878	257,874	255,603	262,101	12,462
西部計	54,358	39.5	16.1	309,095	301,064	297,542	297,116	287,833	287,486	286,881	282,338	276,482	8,031
男性	45,611	39.7	16.3	316,768	308,701	305,004	304,404	294,846	294,815	294,134	288,831	282,787	8,067
女性	8,747	38.4	15.1	269,082	257,173	256,121	255,335	245,898	244,318	243,660	242,109	235,780	11,909
その他計	17,717	38.6	12.9	295,896	294,153	295,055	304,860	279,583	279,887	296,558	302,937	295,692	1,743
男性	12,859	38.7	13.5	307,565	299,040	302,018	312,928	293,137	295,049	306,258	310,415	303,019	8,525
女性	4,858	38.4	11.2	265,009	279,694	272,201	270,886	238,108	235,641	260,312	270,257	264,318	-14,685

注). 単位は、人数は「人」、平均年齢は「歳」、平均勤続年数は「年」、平均賃金は「円」。

2. 年齢別賃金階級別にみた人員分布

第1-5表は、年齢別賃金階級別に全110,385人の分布をみたものである。

なお、表側（タテ軸）には、賃金額を10万円（「10万円」には9万円から10万円未満のデータを含む、9万円未満は集計対象外）から70万円以上まで1万円刻み、表頭（ヨコ軸）には、年齢を15歳から65歳以上まで1歳刻み、でそれぞれ区分している。また、表中には「1次回帰式による賃金の1歳あたり上昇額」（7,092円）が示されているが、これは20歳から40歳までの全データについて、年齢と賃金との関係を1次回帰した場合の直線の“傾き”のことを指している（表中の賃金カーブは、1次回帰は20歳から40歳まで、3次回帰は18歳から55歳まで）。

前節でみたように、全産業計の平均賃金額は307,125円であるが、最頻値は26万円台（2022年調査は25万円台、2021年調査は24万円台）で、27万円台や28万円台がその後が続いている。

表は省略するが、男性の最頻値は31万円台、女性は24万円台である。

年齢別にみると、高校や大学等を卒業後入職したと想定される10代後半や20代前半層では、17～21万円台に多数が分布しており、年齢の高まりとともに概ね右肩上がりに最頻値も上昇している。その一方で、30代や40代以降層でも20万円台前半や第一十分位（賃金額の低い方から10%目にあたる値）の水準を下回る組合員が少なくなく、業種や個々の属性など、当該データを詳細に確認し、賃金水準の底上げ、さらには格差改善等の取り組みが求められる。

さらに、第1-6表は、表側を年齢1歳、表頭を勤続1年ごとに区分し、その平均賃金額を示したものであり、いわゆる賃金傾向値表である。

ちなみに、本表の勤続0年の欄は、中途入社者を含む初任賃金額の実態を示している。

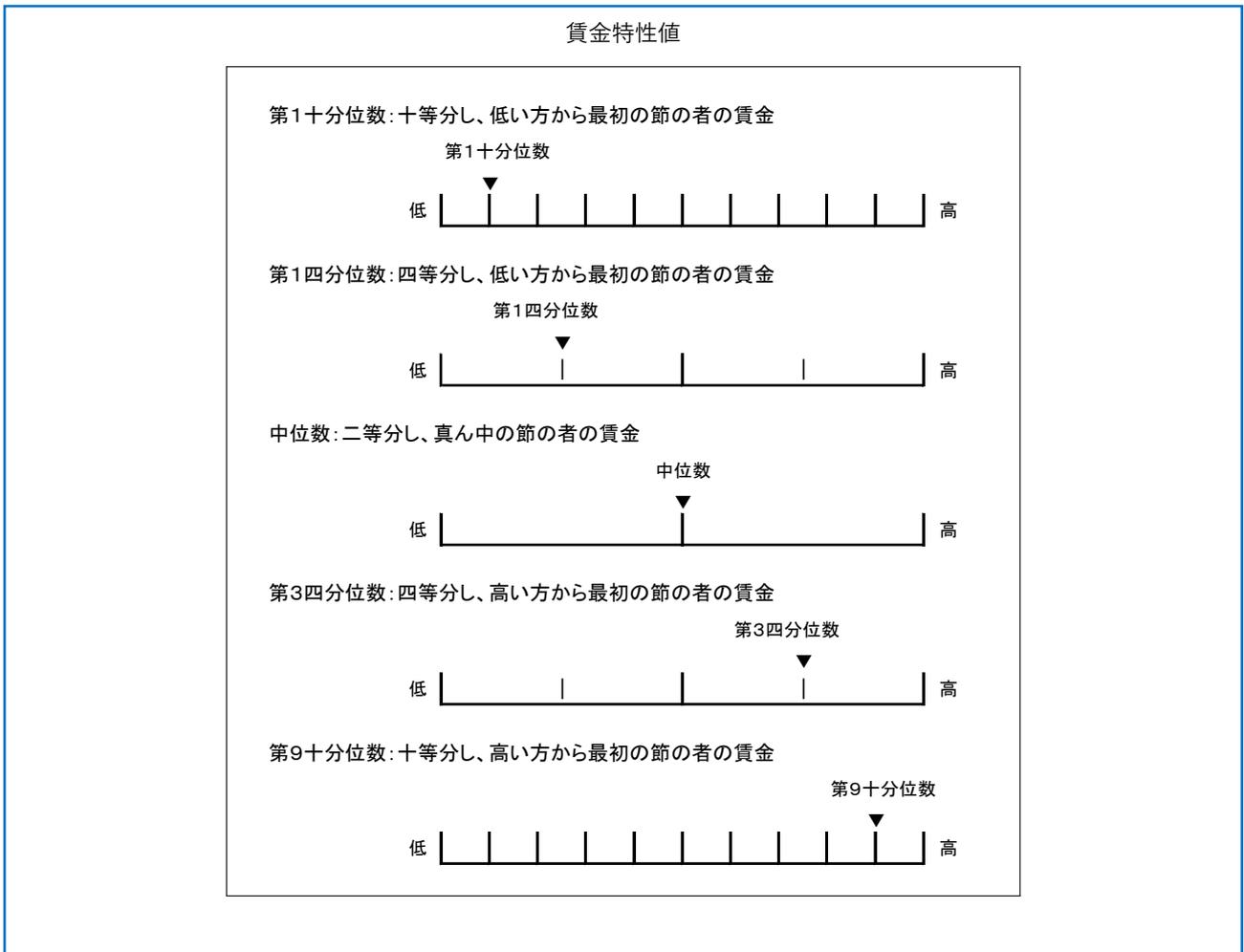
以下、第1-7表～第1-9表は、製造業、交通・運輸業、商業・サービス業それぞれについて、年齢別賃金階級別に全体の人員分布をみたものである。

なお、分布表内に表示されている回帰線グラフは、いずれも全産業計の第1十分位と第1四分位の1次回帰（20歳から40歳まで）、ならびに3次回帰（18歳から55歳まで）の結果を示したものであり、当該業種の結果を示した回帰線グラフでない点に注意していただきたい。

表 1-6 年齢別勤続年数別平均賃金表

年齢計	勤続計	年齢別勤続年数別平均賃金																																																				
		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45							
15	307	260	231	231	246	244	249	257	264	276	285	297	299	312	313	318	325	333	343	344	342	340	340	342	351	354	353	352	355	364	369	376	369	374	373	371	374	370	359	368	372	337	343	316	342									
16	177	177	180																																																			
17	188	187	185	189	191																																																	
18	193	191	195	194	187	183																																																
19	205	216	206	211	194	202	201	194																																														
20	215	216	227	216	200	208	190	215																																														
21	223	238	224	234	224	219	207	213	209																																													
22	231	233	244	229	241	228	227	211	220	200	201																																											
23	240	225	242	257	241	247	240	231	222	228	257																																											
24	247	245	236	247	259	243	256	244	239	228	237	234																																										
25	255	242	246	241	256	266	256	265	253	247	240	243	232																																									
26	260	255	240	247	255	257	275	263	273	269	255	239	250	238																																								
27	268	257	251	258	249	254	268	289	268	279	261	261	251	267	268																																							
28	275	262	262	248	267	254	258	277	295	281	294	269	260	252	267	247	211																																					
29	279	279	269	259	268	262	270	264	293	312	292	296	281	284	263	270	258	211																																				
30	285	285	268	250	264	261	273	271	280	297	319	302	315	273	273	265	276	280																																				
31	293	278	273	277	275	274	268	273	280	294	309	331	310	317	294	287	262	287	218	186																																		
32	298	287	288	259	269	272	277	268	277	282	292	321	346	315	324	283	285	276	294	287																																		
33	310	304	281	274	281	277	272	287	293	298	296	302	326	347	327	335	295	291	280	305	312	274																																
34	316	284	297	278	276	289	282	284	291	297	313	315	319	320	349	337	337	295	298	295	314	290	310																															
35	324	286	290	301	285	290	282	281	281	299	280	313	303	315	331	362	331	345	306	306	317	322	313	355																														
36	327	305	294	300	301	274	284	302	310	296	313	306	313	322	317	335	347	352	347	358	308	318	308	329	338																													
37	331	293	291	278	302	285	293	289	305	316	319	324	318	301	333	330	341	365	349	374	327	316	309	325	325																													
38	334	293	272	293	293	299	296	286	322	319	295	307	301	295	308	335	329	332	359	371	368	368	341	315	314	335	366																											
39	337	332	275	293	287	289	293	283	298	314	332	302	319	304	331	336	326	321	341	361	391	380	376	322	343	315	339	369	265																									
40	340	340	284	285	298	283	292	287	296	302	319	299	320	308	320	345	348	335	326	340	345	379	385	373	369	320	331	328	344	382	221																							
41	339	319	290	278	308	284	292	274	300	311	326	321	302	307	316	335	321	325	344	345	361	376	395	372	373	337	334	331	349	342	307	303																						
42	338	308	286	291	285	280	268	300	287	294	316	311	339	313	319	336	323	328	335	350	356	366	386	382	373	359	332	334	325	350	257	310	303																					
43	341	333	285	269	299	268	266	285	287	314	309	304	290	296	327	326	334	344	346	350	346	365	388	386	367	385	350	325	325	351	328	332	294																					
44	345	364	285	239	298	291	273	306	268	297	292	290	271	295	317	332	336	331	337	350	343	338	362	376	365	375	383	328	330	336	360	348	311																					
45	351	332	303	252	288	262	250	251	259	281	268	297	266	298	277	321	312	321	326	334	333	353	349	359	342	364	373	385	386	383	331	352	344	374	355	338	286																	
46	352	372	303	247	303	282	253	265	244	283	290	270	278	295	284	324	322	327	347	348	358	349	351	339	333	359	384	384	400	375	395	354	357	358	364	322																		
47	353	385	250	238	290	258	271	300	247	297	297	257	276	266	291	313	307	313	345	329	336	333	371	347	332	351	365	367	405	410	397	387	351	356	362	361	340																	
48	355	400	295	220	302	275	259	265	272	325	283	28																																										

3. 賃金特性値とは



連合静岡：賃金特性値（単位：千円）

	全産業計	男性	女性	製造業	交通・運輸業	商業・サービス業
件数	110,385	90,321	20,064	86,515	8,019	15,851
(単位：千円)						
平均値	307.1	315.1	271.1	310.7	289.7	296.6
第1十分位数	208.7	215.7	188.0	211.6	201.7	194.6
第1四分位数	248.0	257.1	217.2	252.4	230.0	236.2
中位数	300.5	310.4	260.5	305.0	274.9	287.9
第3四分位数	361.0	368.8	312.3	364.4	333.5	352.5
第9十分位数	415.4	420.9	373.0	415.9	401.7	418.2

4. 回帰分析とは

(1) 回帰分析とは

一般的に、年齢と賃金との関係を考えて、年齢が高くなれば賃金も上がると想定されている。ただし、賃金は、年齢という要素だけで決定されるものではないため、個々の年齢によって賃金額にはバラツキが生じているはずである。

そこで、ヨコ軸に年齢、タテ軸に賃金額をとり、個々のデータをプロットしていくと、おおよそ右肩上がりのプロット図が描かれる。そのプロット図から、年齢と賃金との関係を示す線を引こうとする際に、このすべてのデータの真ん中を通る（個々の点からの距離の総和が最も短い位置にある、ズレが最小になる）ように引いた線を「回帰線」という。また、回帰線は、1次式では直線（回帰直線）、2次式以上では曲線（回帰曲線）で表される。

“賃金Yは年齢Xとの関係で決まっている”と想定し、回帰式で表すと、

1次式では「 $Y = aX + b$ 」（a：傾き、b：定数）となる。

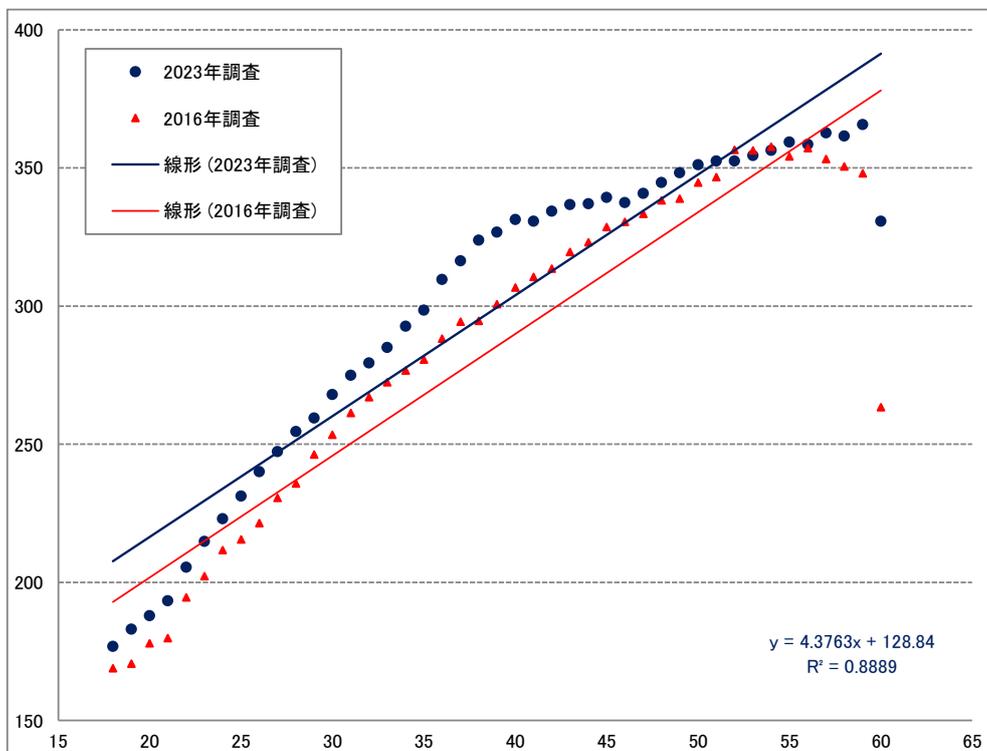
3次式では「 $Y = a_1X^3 + a_2X^2 + a_3X + b$ （定数）」となる。

※1次式は右肩上がりの直線、3次式は両端がゆるやかで中ほどで上昇するS字曲線

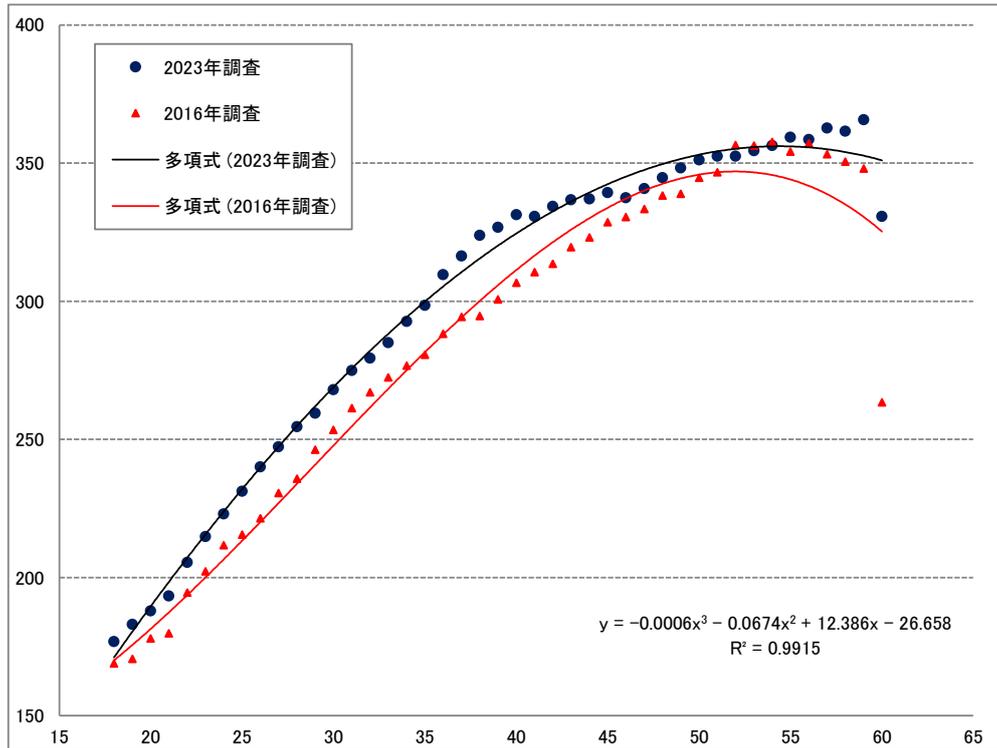
ちなみに、回帰計算は、変数を増やすとあてはまりがよくなるとされている。

なお、回帰式のあてはまりの程度を示す値としては、「決定係数（ R^2 ）」がある。決定係数は、0から1までの数値となり、1に近いほどあてはまりがよいとされる。とくに決まりはないが、0.8以上はあてはまりが非常によい、0.6以上はかなりよい、0.4以上はある程度よい、0.4未満はよくないと考えられている。

例1. 連合静岡（全産業計）：1次式の場合



例2. 連合静岡（全産業計）：3次式の場合



(2) 回帰分析で賃金を求める

例えば、ある年齢ポイントの賃金を求める場合、実在者のデータを利用して算出することになるが、そのデータの中に、賃金の極端に高い（低い）人がいたり、人数が極端に少なかったりすると、それらの影響を受け、1歳ごとの金額のブレが大きくなることが懸念される。

回帰分析で賃金を求めると、特定の年齢ポイントの賃金でも全体のデータから導き出されるため、ブレが少なく、なだらかな賃金カーブが描け、数値を得られることができる。また、実際に当該年齢ポイントに実在者がいなくても、推計値として算出することができるという利点もある。

さらに、年齢ポイントごとに安定的な賃金データが得られれば、1人あたりの1歳間差額（いわゆる賃金カーブ維持分）が求められる他、将来の総額人件費の予測などにも役立てることができる。

II. 年齢ポイント別平均賃金

1. 性別

全産業計における年齢ポイント別平均賃金額は、18歳の176.8千円から55歳の359.4千円まで年齢の高まりとともに賃金額が上昇し、右肩上がりの賃金カーブを描いている（第II-1図）。賃金カーブの傾きといった点では、男性に比べて女性で傾きが緩やかになっている。

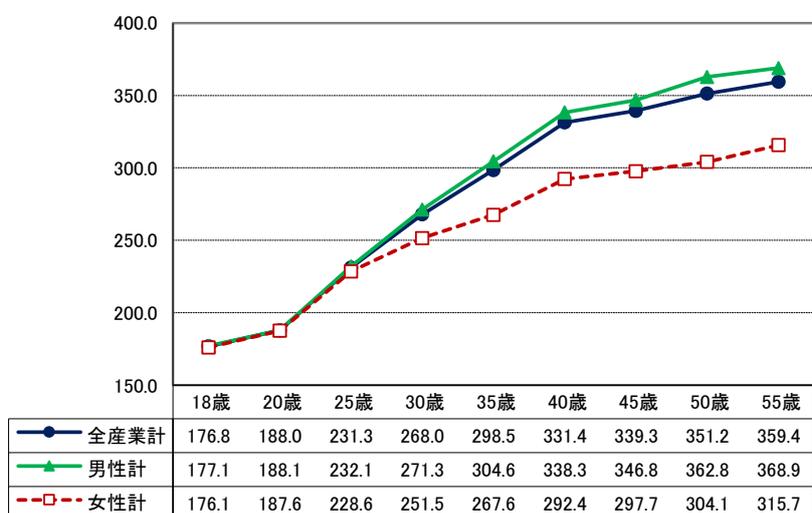
男女間の賃金格差（男性=100）に着目すると、18歳や20歳ではほとんど差は生じていないが、25歳以降徐々に差が開き始め、30歳で93、35歳以降は84～88で推移している。また、その金額差は、25歳では3.5千円程度だが、30歳で2万円、35歳以降では4～6万円前後にまで広がっている。ただし、この格差には、同じ年齢ポイントでも男女間で勤続年数や学歴、職種構成など、属性上の違いが影響している点には留意する必要がある。

なお、年齢区間20～40歳のデータを利用して算出した賃金の1歳あたり上昇額（年齢を説明変数として賃金について1次回帰した場合の年齢係数＝「傾き」）は、7,092円（男性：7,507円、女性：4,569円）である。

第II-1図 年齢ポイント別平均賃金（単位：千円）

	全産業計		男性計		女性計		男性 -女性	女性 /男性 (%)
	18歳 =100		18歳 =100		18歳 =100			
18歳	176.8	100.0	177.1	100.0	176.1	100.0	1.0	99.4
20歳	188.0	106.3	188.1	106.2	187.6	106.5	0.5	99.8
25歳	231.3	130.8	232.1	131.0	228.6	129.8	3.5	98.5
30歳	268.0	151.5	271.3	153.2	251.5	142.8	19.8	92.7
35歳	298.5	168.8	304.6	171.9	267.6	152.0	36.9	87.9
40歳	331.4	187.4	338.3	191.0	292.4	166.0	45.9	86.4
45歳	339.3	191.9	346.8	195.8	297.7	169.1	49.0	85.9
50歳	351.2	198.6	362.8	204.8	304.1	172.7	58.7	83.8
55歳	359.4	203.2	368.9	208.3	315.7	179.3	53.2	85.6
傾き	7,092		7,507		4,569			

注)。「傾き」は年齢区間20～40歳、単位は円。



2. 業種別

20歳、35歳、45歳といった各年齢ポイントの平均賃金を業種別にみると、20歳では、製造業が187.2千円、交通・運輸業が195.0千円、商業・サービス業が189.1千円というように、交通・運輸業が製造業や商業・サービス業を上回る水準にある（第II-2図）。35歳でも、交通・運輸業が305.2千円と最も高く、製造業（299.0千円）や商業・サービス業（292.5千円）を上回るが、45歳では、製造業（340.0千円）が最も高くなり、交通・運輸業（336.9千円）や商業・サービス業（336.7千円）を上回るようになる。

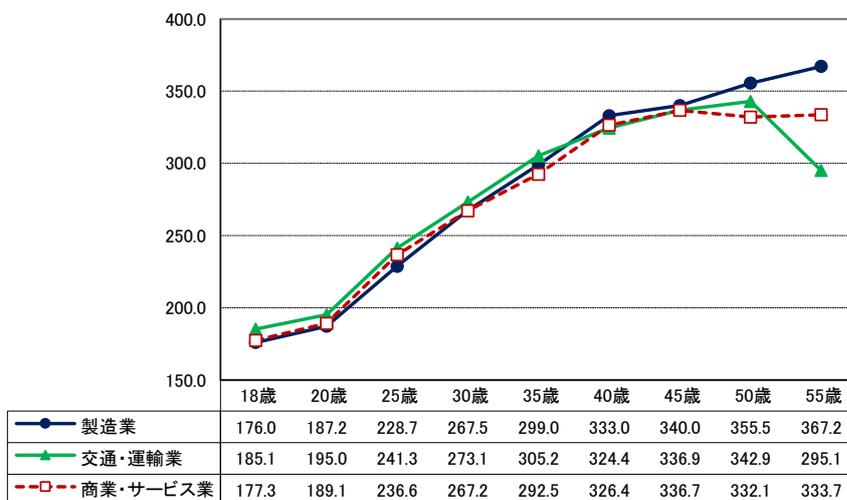
また、賃金カーブの傾き（18歳=100）といった点では、25歳や30歳ではさほど大きな差はみられないが、35歳で製造業が170と、交通・運輸業や商業・サービス業（ともに165）に比べて傾きがやや大きくなり始める。40歳以降は、製造業の傾きが徐々に大きくなるのに対して、交通・運輸業や商業・サービス業は横ばい、もしくは傾きが小さくなっている。

なお、1次回帰式による賃金の1歳あたり上昇額は、製造業が7,383円、交通・運輸業が6,609円、商業・サービス業が5,905円である。

第II-2図 年齢ポイント別平均賃金（単位：千円）

	製造業						交通・運輸業						商業・サービス業					
	総計		男性計		女性計		総計		男性計		女性計		総計		男性計		女性計	
	18歳 =100		18歳 =100		18歳 =100		18歳 =100		18歳 =100		18歳 =100		18歳 =100		18歳 =100		18歳 =100	
18歳	176.0	100.0	176.4	100.0	174.9	100.0	185.1	100.0	184.7	100.0	186.5	100.0	177.3	100.0	176.7	100.0	178.1	100.0
20歳	187.2	106.4	187.3	106.2	186.8	106.8	195.0	105.3	196.1	106.2	189.2	101.4	189.1	106.7	187.9	106.3	190.8	107.2
25歳	228.7	130.0	230.0	130.4	223.7	128.0	241.3	130.3	244.4	132.3	227.1	121.8	236.6	133.4	234.2	132.5	240.9	135.3
30歳	267.5	152.0	270.5	153.4	249.8	142.9	273.1	147.5	279.6	151.4	226.6	121.5	267.2	150.7	269.8	152.7	260.9	146.5
35歳	299.0	169.9	304.6	172.7	266.4	152.4	305.2	164.9	310.5	168.1	264.3	141.7	292.5	165.0	301.2	170.4	271.7	152.6
40歳	333.0	189.2	339.2	192.3	287.1	164.2	324.4	175.2	334.9	181.3	251.1	134.6	326.4	184.1	334.4	189.2	309.0	173.5
45歳	340.0	193.3	347.3	196.9	293.2	167.7	336.9	182.0	346.9	187.8	238.4	127.8	336.7	189.9	343.5	194.4	317.7	178.4
50歳	355.5	202.0	366.3	207.7	307.0	175.6	342.9	185.2	354.2	191.7	255.3	136.9	332.1	187.3	345.5	195.5	304.4	170.9
55歳	367.2	208.7	375.9	213.1	317.9	181.8	295.1	159.4	299.0	161.9	268.4	143.9	333.7	188.2	345.5	195.5	317.3	178.2
傾き	7,383		7,703		4,740		6,609		7,217		2,498		5,905		6,568		4,497	

注) 「傾き」は年齢区間20～40歳、単位は円。



3. 規模別

規模別にみると、20歳では、99人以下の規模で17万円台、100～299人や300～999人の規模で18万円台、1,000人以上の規模で19万円台となっている（第Ⅱ-3図）。35歳では、各規模間の中で格差が徐々に生じ始め、99人以下で27万円台、100～299人で26万円台、300～999人で28万円台、1,000人以上で30万円台というように、2～4万円程度の金額差がみられる。ただし、いずれの年齢ポイントにおいても、999人以下と1,000人以上の規模間格差は明確であり、35歳で2～4万円、45歳で3～5万円程度の差が生じている。

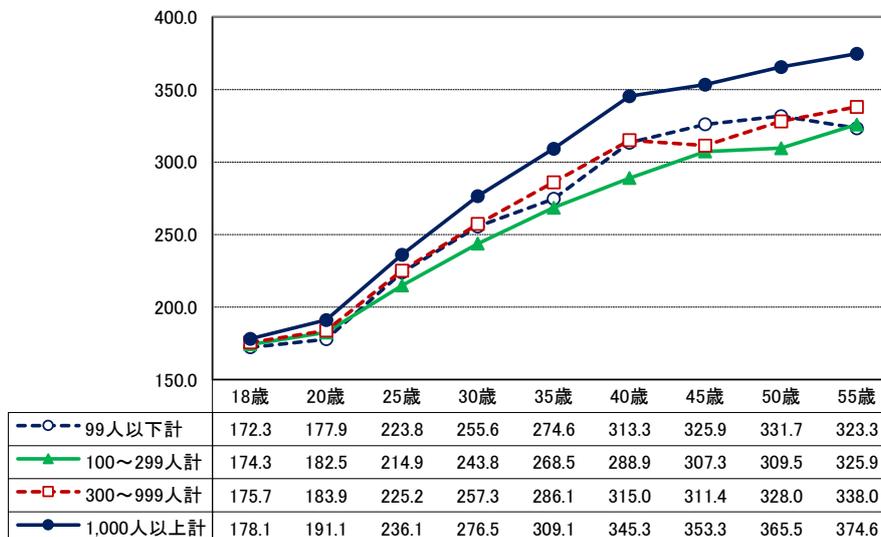
上記の差を賃金カーブの傾き（18歳=100）で確認すると、30歳あたりから999人以下と1,000人以上の差が徐々に目立つようになり、999人以下（99人以下：148、100～299人：140、300～999人：146）に比べて、1,000人以上では155となっている。

また、1次回帰式による賃金の1歳あたり上昇額は、99人以下が5,546円、100～299人が5,547円と5千円台半ばにとどまる一方、300～999人では6,316円、1,000人以上では7,683円と、ここからも賃金カーブの傾き、規模間格差の大きいことがわかる。

第Ⅱ-3図 年齢ポイント別平均賃金（単位：千円）

	99人以下計		100～299人計		300～999人計		1,000人以上計	
		18歳 =100		18歳 =100		18歳 =100		18歳 =100
18歳	172.3	100.0	174.3	100.0	175.7	100.0	178.1	100.0
20歳	177.9	103.2	182.5	104.7	183.9	104.6	191.1	107.3
25歳	223.8	129.9	214.9	123.3	225.2	128.1	236.1	132.5
30歳	255.6	148.3	243.8	139.9	257.3	146.4	276.5	155.2
35歳	274.6	159.4	268.5	154.1	286.1	162.8	309.1	173.5
40歳	313.3	181.8	288.9	165.8	315.0	179.3	345.3	193.9
45歳	325.9	189.1	307.3	176.3	311.4	177.2	353.3	198.3
50歳	331.7	192.4	309.5	177.6	328.0	186.6	365.5	205.2
55歳	323.3	187.6	325.9	187.0	338.0	192.3	374.6	210.3
傾き	5,546		5,547		6,316		7,683	

注) 「傾き」は年齢区間20～40歳、単位は円。



4. 地域別

地域別にみると、20歳の平均賃金額は、東部が189.5千円、西部が186.4千円と、中部（180.6千円）を上回る水準にあるが、30歳では、東部（264.1千円）と中部（263.4千円）、西部（267.6千円）が概ね同水準で並ぶようになる（第II-4図）。45歳になると、東部（344.6千円）が最も高くなり、中部（332.7千円）や西部（337.7千円）との格差がやや拡大している。

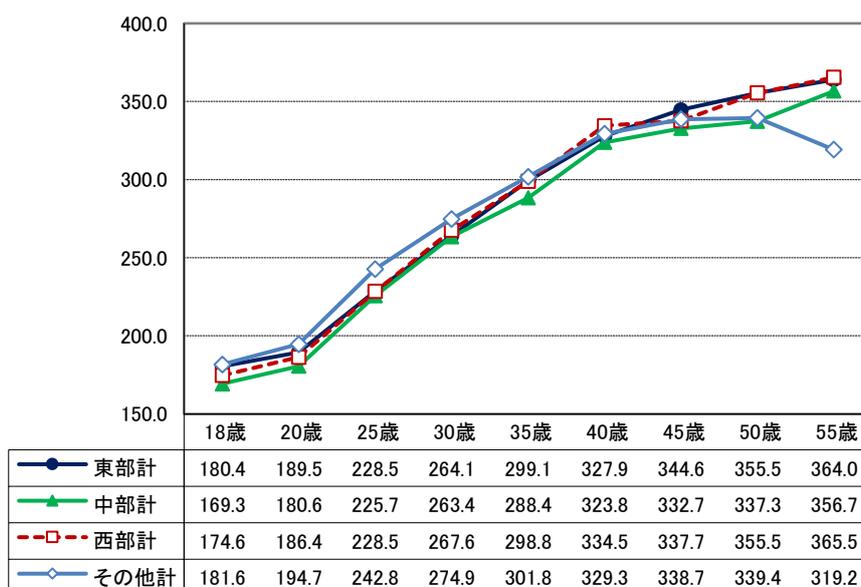
賃金カーブの傾き（18歳=100）は、25歳や30歳では、東部や西部に比べて中部で傾きが大きくなっているが、35歳や40歳では中部と西部、45歳では中部が、いずれも他の地域を上回るようになる。

なお、1次回帰式による賃金の1歳あたり上昇額は、東部が7,085円、中部が6,869円、西部が7,476円である。

第II-4図 年齢ポイント別平均賃金（単位：千円）

	東部計		中部計		西部計		その他計	
	18歳 =100		18歳 =100		18歳 =100		18歳 =100	
18歳	180.4	100.0	169.3	100.0	174.6	100.0	181.6	100.0
20歳	189.5	105.1	180.6	106.7	186.4	106.7	194.7	107.2
25歳	228.5	126.7	225.7	133.3	228.5	130.8	242.8	133.7
30歳	264.1	146.4	263.4	155.6	267.6	153.2	274.9	151.3
35歳	299.1	165.8	288.4	170.4	298.8	171.1	301.8	166.1
40歳	327.9	181.8	323.8	191.3	334.5	191.5	329.3	181.3
45歳	344.6	191.0	332.7	196.6	337.7	193.3	338.7	186.5
50歳	355.5	197.0	337.3	199.3	355.5	203.5	339.4	186.9
55歳	364.0	201.8	356.7	210.7	365.5	209.3	319.2	175.7
傾き	7,085		6,869		7,476		6,136	

注)。「傾き」は年齢区間20～40歳、単位は円。



5. 学歴別

学歴別の結果については、高卒（55,072件）と大卒・大学院修了（34,020件）に着目する。

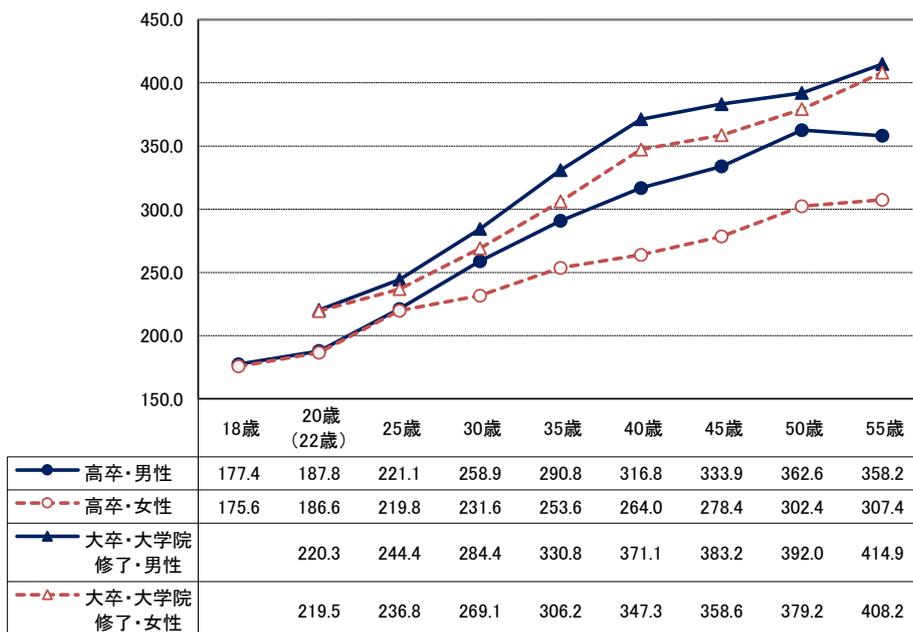
平均賃金額は、高卒（平均年齢：40.6歳、平均勤続年数：18.6年）が298.3千円、大卒・大学院修了（同：37.9歳、同：12.2年）が332.0千円である。性別では、高卒の場合、男性が306.7千円、女性が259.5千円、大卒・大学院修了は、男性が337.8千円、女性が301.9千円となっている（第II-5図）。男女間の賃金格差（男性=100）といった点では、高卒（84.6）に比べて大卒・大学院修了（89.4）でやや小さい。

賃金カーブの傾きをみると、高卒では、18歳から25歳までは男女間の差はほとんどみられないが、25歳を過ぎると徐々に開きはじめ、40歳、45歳、50歳で差が大きくなる。一方、大卒・大学院修了でも、25歳以降男女間の差が開き始めるものの、高卒ほど大きくなく、差のピークは35歳とやや早い。

第II-5図 年齢ポイント別平均賃金（単位：千円）

	高卒						大卒・大学院修了					
	高卒計		高卒・男性		高卒・女性		大卒・大学院修了計		大卒・大学院修了・男性		大卒・大学院修了・女性	
	18歳 =100		18歳 =100		18歳 =100		22歳 =100		22歳 =100		22歳 =100	
全産業計	298.3		306.7		259.5		332.0		337.8		301.9	
18歳	176.9	100.0	177.4	100.0	175.6	100.0						
20歳(22歳)	187.5	106.0	187.8	105.9	186.6	106.2	220.0	100.0	220.3	100.0	219.5	
25歳	220.8	124.8	221.1	124.7	219.8	125.1	242.5	110.2	244.4	110.9	236.8	
30歳	254.8	144.0	258.9	145.9	231.6	131.9	282.0	128.2	284.4	129.1	269.1	
35歳	284.4	160.7	290.8	163.9	253.6	144.4	327.3	148.7	330.8	150.2	306.2	
40歳	308.9	174.6	316.8	178.6	264.0	150.3	367.7	167.1	371.1	168.5	347.3	
45歳	327.2	185.0	333.9	188.2	278.4	158.5	380.3	172.9	383.2	173.9	358.6	
50歳	352.1	199.0	362.6	204.4	302.4	172.2	390.0	177.2	392.0	177.9	379.2	
55歳	349.5	197.5	358.2	201.9	307.4	175.0	414.0	188.1	414.9	188.3	408.2	
傾き	6,279		6,727		3,663		8,483		8,705		6,644	

注)。「傾き」は年齢区間20~40歳、単位は円。
※大卒・大学院修了の「20歳」は、「22歳」の数値。



6. 2022年調査との比較

(1) 全体比較

以下では、全産業計の結果を用いて、2022年調査との比較を行うことにする（第Ⅱ-6図）。

2023年調査は、組合員数 110,385 人、平均年齢 39.8 歳、平均勤続年数 16.0 年、平均賃金額 307,125 円である（2022年調査：組合員数 105,368 人、平均年齢 39.4 歳、平均勤続年数 16.0 年、平均賃金額 301,926 円）。

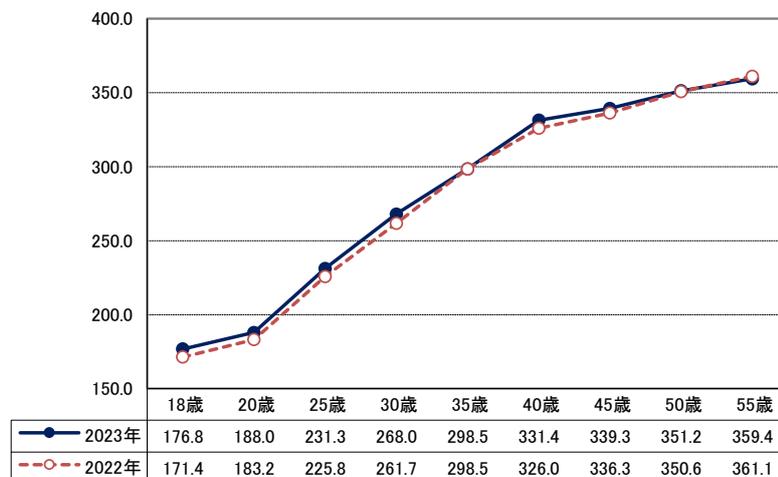
年齢ポイント別平均賃金額を 2022 年調査と比べると、30 歳で 6.2 千円、18 歳や 25 歳、40 歳で 5.4 ～5.5 千円増加しており、とりわけ若年層での上昇率の高さが目立っている。

なお、1 次回帰式による賃金の 1 歳あたり上昇額は 7,092 円で、2022 年調査（7,257 円）に比べて 165 円（-2.3%）の減少となっている。若年層を中心に賃金額が上昇していることから、賃金カーブが押し上がる一方、中高年層の伸びは小幅となっており、その分賃金カーブの傾きが緩やかにフラット化していることが影響しているものと思われる。

第Ⅱ-6図 年齢ポイント別平均賃金：全産業計（単位：千円）

	2023年		2022年		2021年		2020年		2019年		2018年		2017年		2016年		2015年		上昇率 (%)	2023年 -2022年
	18歳 =100		18歳 =100		18歳 =100		18歳 =100		18歳 =100		18歳 =100		18歳 =100		18歳 =100		18歳 =100			
全産業計	307.1		301.9		299.0		298.5		289.9		287.1		290.1		289.3		284.6		1.7	5.2
18歳	176.8	100.0	171.4	100.0	173.6	100.0	171.0	100.0	168.8	100.0	166.4	100.0	166.6	100.0	168.9	100.0	164.3	100.0	3.2	5.4
20歳	188.0	106.3	183.2	106.9	182.9	105.3	181.3	106.0	178.6	105.8	176.5	106.1	175.1	105.1	177.9	105.3	174.4	106.2	2.6	4.8
25歳	231.3	130.8	225.8	131.7	226.4	130.4	224.0	131.0	220.9	130.9	218.3	131.2	219.2	131.6	215.6	127.6	208.9	127.2	2.4	5.5
30歳	268.0	151.5	261.7	152.7	259.6	149.5	254.3	148.7	251.1	148.7	249.0	149.7	254.3	152.7	253.4	150.0	249.4	151.8	2.4	6.2
35歳	298.5	168.8	298.5	174.1	299.0	172.2	297.1	173.7	289.8	171.7	286.5	172.2	284.6	170.8	280.7	166.2	275.0	167.4	0.0	-0.1
40歳	331.4	187.4	326.0	190.2	323.7	186.4	319.8	187.0	312.1	184.9	303.3	182.3	306.3	183.9	306.7	181.6	305.3	185.8	1.7	5.4
45歳	339.3	191.9	336.3	196.2	334.0	192.3	333.2	194.8	321.1	190.2	323.1	194.2	325.4	195.4	328.6	194.6	323.5	196.9	0.9	3.1
50歳	351.2	198.6	350.6	204.5	346.8	199.7	345.5	202.0	339.5	201.1	335.5	201.6	343.3	206.1	344.7	204.1	338.3	205.9	0.2	0.6
55歳	359.4	203.2	361.1	210.6	356.6	205.4	355.3	207.7	348.9	206.7	353.7	212.6	356.9	214.3	354.2	209.7	348.9	212.4	-0.5	-1.7
傾き	7,092		7,257		7,104		7,009		6,928		6,479		6,541		6,356		6,392			

注)。「傾き」は年齢区間20～40歳、単位は円。



第Ⅱ-1表は、年齢ポイント別平均賃金額を性別、業種別、規模別、地域別に整理したものである。

第Ⅱ-1表 年齢ポイント別平均賃金（単位：千円）

	全産業計		2023年 -2022年	男性		2023年 -2022年	女性		2023年 -2022年
	2023年	2022年		2023年	2022年		2023年	2022年	
18歳	176.8	171.4	5.4	177.1	171.1	6.0	176.1	172.2	3.9
20歳	188.0	183.2	4.8	188.1	183.8	4.2	187.6	181.3	6.4
25歳	231.3	225.8	5.5	232.1	227.0	5.1	228.6	221.4	7.2
30歳	268.0	261.7	6.2	271.3	263.6	7.7	251.5	250.6	0.9
35歳	298.5	298.5	-0.1	304.6	303.8	0.8	267.6	262.4	5.2
40歳	331.4	326.0	5.4	338.3	332.7	5.6	292.4	282.1	10.3
45歳	339.3	336.3	3.1	346.8	343.4	3.3	297.7	298.9	-1.2
50歳	351.2	350.6	0.6	362.8	360.6	2.2	304.1	308.8	-4.7
55歳	359.4	361.1	-1.7	368.9	368.5	0.4	315.7	321.1	-5.5
傾き	7,092	7,257		7,507	7,607		4,569	4,845	

	製造業		2023年 -2022年	交通・運輸業		2023年 -2022年	商業・サービス業		2023年 -2022年
	2023年	2022年		2023年	2022年		2023年	2022年	
18歳	176.0	170.8	5.2	185.1	175.0	10.1	177.3	173.6	3.7
20歳	187.2	183.1	4.1	195.0	186.3	8.8	189.1	181.1	8.0
25歳	228.7	224.3	4.4	241.3	229.1	12.2	236.6	230.7	5.9
30歳	267.5	260.2	7.3	273.1	264.8	8.3	267.2	268.4	-1.2
35歳	299.0	298.8	0.2	305.2	304.4	0.8	292.5	293.3	-0.8
40歳	333.0	327.7	5.3	324.4	312.0	12.4	326.4	321.3	5.1
45歳	340.0	337.0	3.0	336.9	310.9	26.0	336.7	342.1	-5.3
50歳	355.5	357.7	-2.2	342.9	284.6	58.3	332.1	337.6	-5.5
55歳	367.2	368.8	-1.6	295.1	261.9	33.1	333.7	363.6	-29.9
傾き	7,383	7,438		6,609	6,583		5,905	6,488	

	99人以下		2023年 -2022年	100～299人		2023年 -2022年	300～999人		2023年 -2022年	1,000人以上		2023年 -2022年
	2023年	2022年		2023年	2022年		2023年	2022年		2023年	2022年	
18歳	172.3	166.0	6.4	174.3	170.1	4.2	175.7	171.1	4.7	178.1	171.8	6.3
20歳	177.9	172.8	5.2	182.5	179.0	3.5	183.9	179.8	4.1	191.1	184.7	6.4
25歳	223.8	213.3	10.5	214.9	209.5	5.4	225.2	217.5	7.7	236.1	229.6	6.6
30歳	255.6	247.3	8.3	243.8	237.7	6.1	257.3	248.5	8.8	276.5	268.0	8.5
35歳	274.6	246.9	27.8	268.5	266.6	1.9	286.1	280.8	5.3	309.1	306.3	2.8
40歳	313.3	279.1	34.2	288.9	277.5	11.5	315.0	301.2	13.9	345.3	337.8	7.6
45歳	325.9	308.6	17.3	307.3	295.8	11.5	311.4	307.7	3.7	353.3	348.9	4.4
50歳	331.7	321.0	10.7	309.5	287.1	22.4	328.0	321.6	6.4	365.5	365.4	0.1
55歳	323.3	296.3	27.0	325.9	322.2	3.7	338.0	325.3	12.7	374.6	377.0	-2.4
傾き	5,546	4,638		5,547	5,192		6,316	6,137		7,683	7,813	

	東部		2023年 -2022年	中部		2023年 -2022年	西部		2023年 -2022年	その他		2023年 -2022年
	2023年	2022年		2023年	2022年		2023年	2022年		2023年	2022年	
18歳	180.4	171.6	8.8	169.3	168.2	1.0	174.6	169.9	4.7	181.6	175.2	6.4
20歳	189.5	183.9	5.7	180.6	177.8	2.8	186.4	183.0	3.4	194.7	186.1	8.6
25歳	228.5	226.7	1.9	225.7	221.9	3.8	228.5	222.4	6.1	242.8	234.9	7.9
30歳	264.1	261.3	2.8	263.4	261.5	2.0	267.6	258.3	9.3	274.9	272.2	2.6
35歳	299.1	299.5	-0.4	288.4	300.0	-11.7	298.8	296.2	2.6	301.8	303.9	-2.1
40歳	327.9	333.6	-5.7	323.8	316.8	7.0	334.5	323.3	11.3	329.3	331.2	-1.9
45歳	344.6	348.0	-3.3	332.7	330.3	2.5	337.7	330.4	7.3	338.7	340.2	-1.5
50歳	355.5	359.0	-3.5	337.3	340.6	-3.3	355.5	352.6	2.9	339.4	329.4	10.0
55歳	364.0	355.0	9.0	356.7	344.7	12.0	365.5	373.1	-7.6	319.2	344.5	-25.3
傾き	7,085	7,579		6,869	7,130		7,476	7,271		6,136	6,975	

注)。「傾き」は年齢区間20～40歳、単位は円。

(2) 同一組合での比較

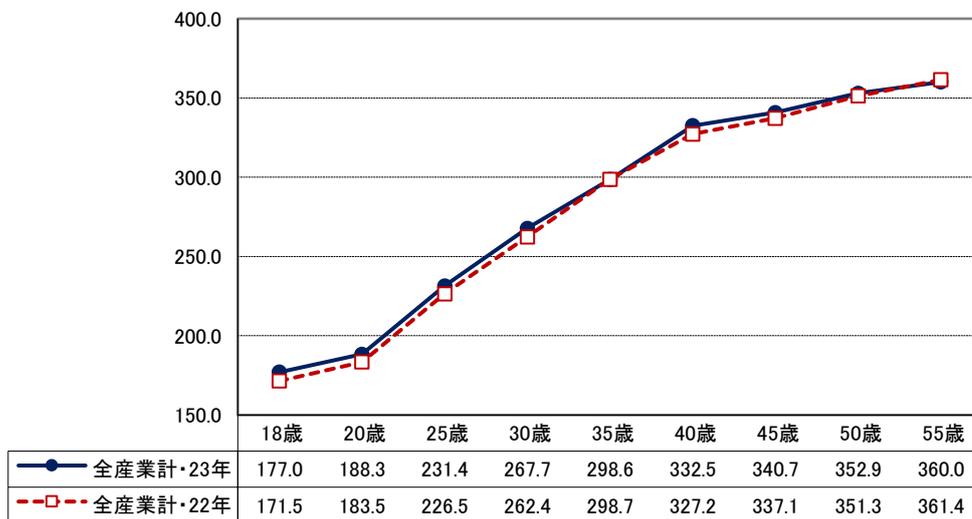
さらに、今年度（2023年）と前年度（2022年）双方に参加している同一組合を抽出し、年齢ポイント別平均賃金額の推移をみると、35歳や55歳を除くいずれの年齢ポイントで増加しており、賃金カーブが全体的に押し上がっている（第Ⅱ-7図）。

1次回帰式による賃金の1歳あたり上昇額は、2023年調査が7,131円、2022年調査は7,280円と、同一組合に限っても減少（149円、-2.0%）しており、賃金カーブの水準が上がってもその傾きは緩やかになっている。

第Ⅱ-7図 年齢ポイント別平均賃金：全産業計（単位：千円）

	2023年(2022年と同一組合)						2022年(2023年と同一組合)						全産業計	
	全産業計・23年		男性		女性		全産業計・22年		男性		女性		上昇率 (%)	2023年 -2022年
	18歳 =100		18歳 =100		18歳 =100		18歳 =100		18歳 =100		18歳 =100			
18歳	177.0	100.0	177.3	100.0	176.4	100.0	171.5	100.0	171.2	100.0	172.3	100.0	3.2	5.6
20歳	188.3	106.4	188.5	106.3	187.9	106.5	183.5	107.0	184.0	107.5	182.1	105.7	2.6	4.8
25歳	231.4	130.7	232.4	131.1	228.0	129.2	226.5	132.1	227.6	132.9	222.4	129.0	2.2	4.9
30歳	267.7	151.2	271.2	153.0	250.2	141.9	262.4	153.0	263.9	154.2	252.6	146.6	2.0	5.3
35歳	298.6	168.6	304.7	171.9	266.2	150.9	298.7	174.2	303.9	177.5	262.3	152.2	0.0	-0.1
40歳	332.5	187.8	339.7	191.6	291.3	165.1	327.2	190.8	333.8	195.0	283.1	164.3	1.6	5.3
45歳	340.7	192.5	347.9	196.3	298.0	169.0	337.1	196.6	344.2	201.1	299.0	173.5	1.1	3.6
50歳	352.9	199.3	365.1	205.9	301.9	171.2	351.3	204.8	361.2	211.0	309.4	179.6	0.5	1.7
55歳	360.0	203.4	370.2	208.8	311.8	176.8	361.4	210.8	368.8	215.4	321.6	186.6	-0.4	-1.4
傾き	7,131		7,552		4,461		7,280		7,623		4,836			

注)。「傾き」は年齢区間20～40歳、単位は円。



なお、抽出された同一組合数は200組合（今回調査における集計対象247組合のうちの81.0%）、2023年調査では、集計対象数が103,426人、平均年齢が39.7歳、平均勤続年数が16.1年、平均賃金額が307,284円となっている。また、2022年調査は、同99,355人、同39.4歳、同16.1年、同302,786円である。

Ⅲ. 「賃金構造基本統計調査・静岡」の結果

以下では、厚生労働省が実施している『賃金構造基本統計調査（賃金センサス）』（「主要産業に雇用される労働者について、その賃金の実態を労働者の雇用形態、就業形態、職種、性、年齢、学歴、勤続年数、経験年数別等に明らかにする」ことを目的に、毎年7月に実施されている基幹統計）の結果を活用し、連合静岡「個別賃金実態調査」の結果と照らし合わせておく。

1. 賃金構造基本統計調査にみる静岡の概況

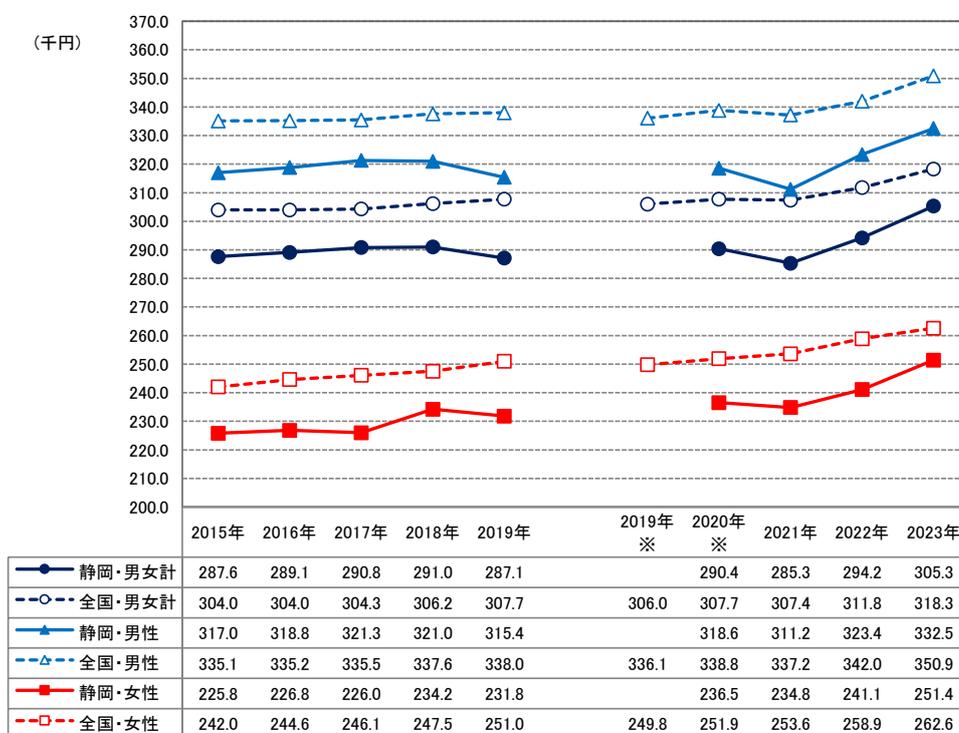
「賃金構造基本統計調査」（以下、賃金センサス）の結果から、静岡の概況（企業規模計 10 人以上）を確認すると、労働者数は 891,680 人（2022 年：798,350 人）で、うち男性が 592,640 人（同：515,100 人）、女性は 299,040 人（同：283,250 人）である。

静岡の一般労働者（短時間労働者を除く）の所定内給与額は、全体で 305.3 千円（年齢：44.1 歳、勤続年数：13.1 年）となっており、男性が 332.5 千円（同：44.6 歳、同：14.5 年）、女性が 251.4 千円（同：42.9 歳、同：10.2 年）である（第Ⅲ－1 図）。

賃金額は、新型コロナの影響で減少した 2021 年調査以降は、2022 年調査、2023 年調査と続けて増加しており、2022 年調査からの上昇率では女性（4.3%）が男性（2.8%）をやや上回っている（全体での上昇率は 3.8%）。

また、男女間の賃金格差（男性＝100）といった点では、2020 年調査以降、女性の賃金水準は 75 前後で推移しており、依然としてその格差は小さくない。

第Ⅲ－1 図 所定内給与額の推移



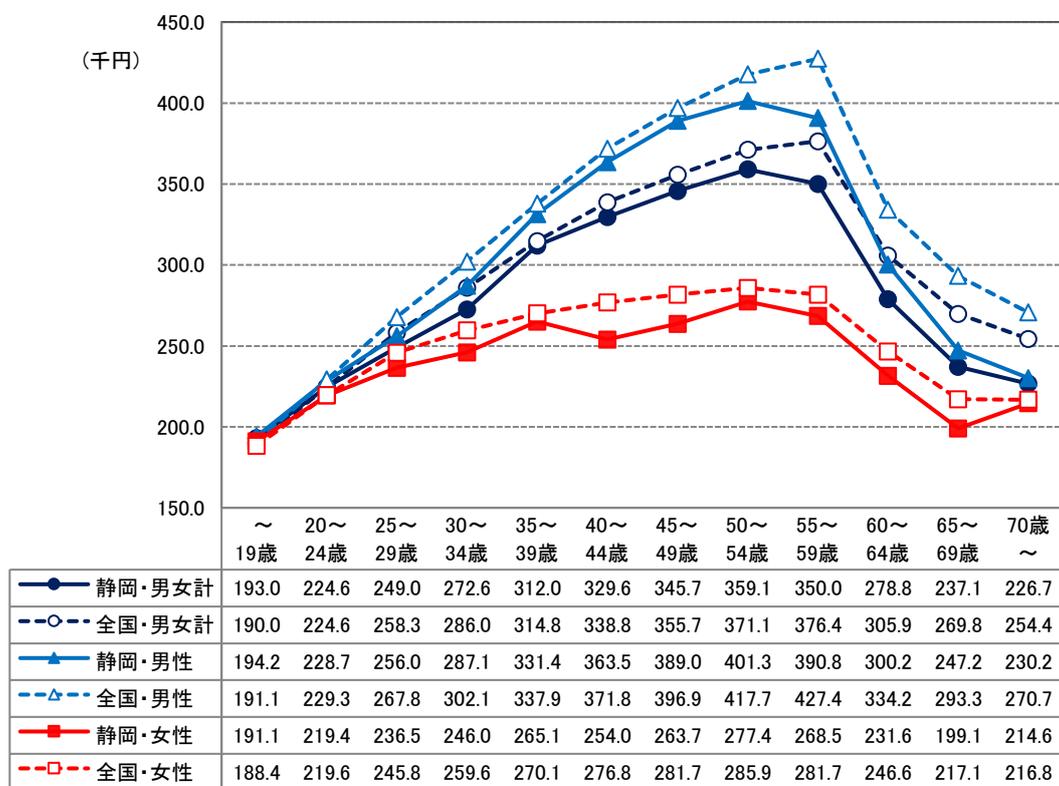
出所) 厚生労働省ホームページ「賃金構造基本統計調査」より作成。
※2020年より推計方法が変更。2019年の数値は、推計方法を合わせた再集計値。

表は省略するが、賃金センサスの結果から静岡の一般労働者の年収額（「きまって支給する現金給与額」×12+「年間賞与その他特別給与額」）を算出すると、男性が550.7万円（2022年：537.8万円）、女性が387.1万円（同：368.9万円）と推算される。

年齢階級別に賃金額をみると、男性の場合、年齢階級の高まりとともに賃金額も上昇し、ピークは50代前半層（401.3千円、20～24歳を100とすると175）である（第Ⅲ-2図）。一方、女性でも、男性と同様に50代前半層（277.4千円、同層を100とすると126）がピークとなっているが、30代後半から50代後半層にかけては賃金カーブの傾きもより緩やかで25～27万円台で推移している。

また、男女間の賃金格差は、20代後半層から徐々に開き始め、40代後半から50代後半層では12万円程度の差が生じている。

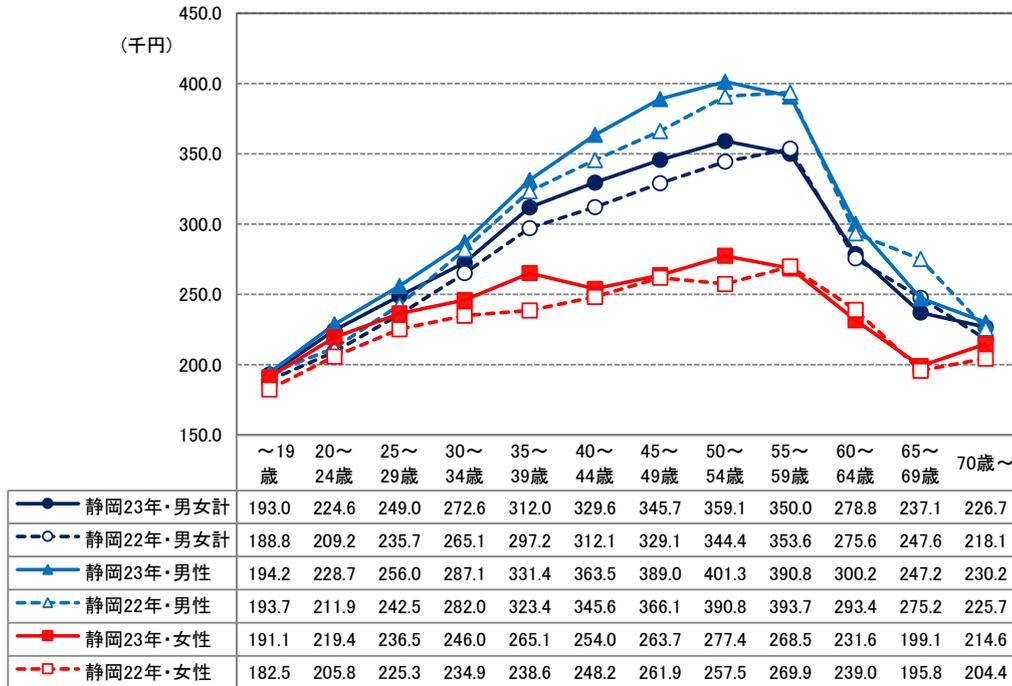
第Ⅲ-2図 年齢階級別所定内給与額



出所) 厚生労働省ホームページ「賃金構造基本統計調査」より作成。

第III-3図は、年齢階級別所定内給与額を2022年調査と比較したものであるが、男女ともに賃金額のピークが50代後半層から50代前半層に早まることに加え、賃金カーブ自体も50代前半までの各年齢階級で全体的に押し上がっている。2022年調査と比べると、男性では40代後半層、女性では30代後半層で、いずれも賃金額の増加幅が最も大きい。

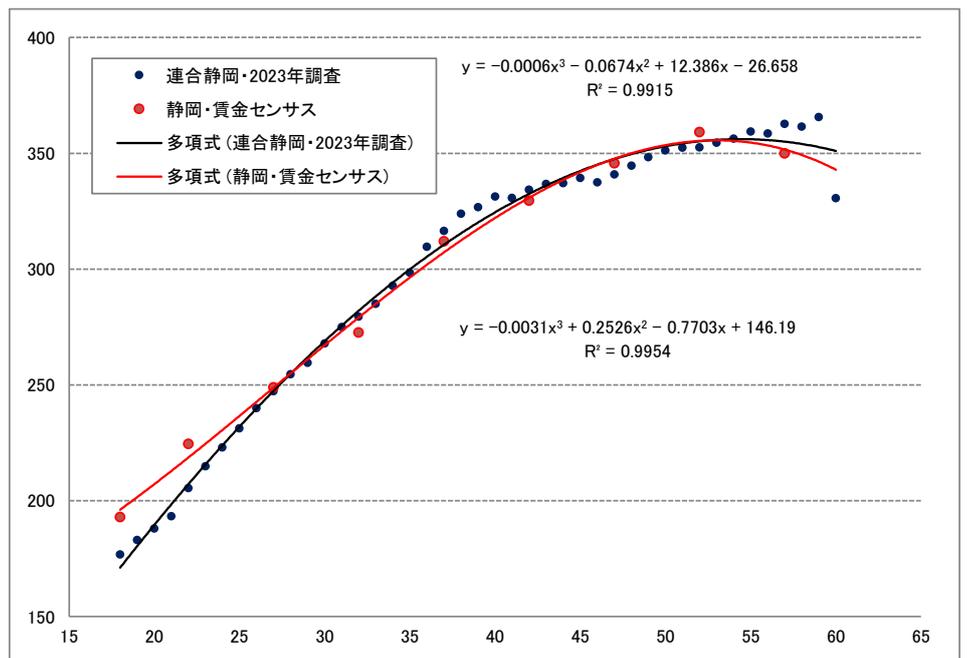
第III-3図 年齢階級別所定内給与額



出所) 厚生労働省ホームページ「賃金構造基本統計調査」より作成。

なお、参考までに、連合静岡「個別賃金実地調査」の年齢ポイント別賃金(18歳から60歳)と、賃金センサスの年齢階級別賃金(19歳以下から55~59歳までの9階級)の双方をプロットし、賃金カーブをそれぞれ描くと第III-4図のようになる。

第III-4図 「個別賃金実地調査」と「賃金構造基本統計調査」のプロット図
(タテ軸：万円、ヨコ軸：歳)



出所) 厚生労働省ホームページ「賃金構造基本統計調査」より作成。

2. 性別

第Ⅲ－5図は、賃金センサスと同様な年齢階層に区分して、平均賃金を整理したものである（左表：連合静岡調査、右表：賃金センサス）。

男性の結果に着目すると、いずれの年齢階層でも賃金センサス（平均年齢：44.6歳、平均勤続年数：14.5年、平均所定内給与額：332.5千円）を下回る水準にあり、とりわけ20代前半や40代後半、50代前半層での差が目立っている（連合静岡の男性：平均年齢40.0歳、平均勤続年数16.3年、平均賃金額315,135円）。なお、連合静岡調査は、公務関係組織のデータが含まれる他、賃金センサスに比べて平均年齢で5歳ほど、賃金額でも2万円近く下回っている点をあらかじめ指摘しておく。

また、賃金センサスの結果をみる際には、調査対象者に部長や課長といった役職層も含まれている点、所定内給与額にいわゆる家族手当や通勤手当などが含まれている点にも留意する必要がある。

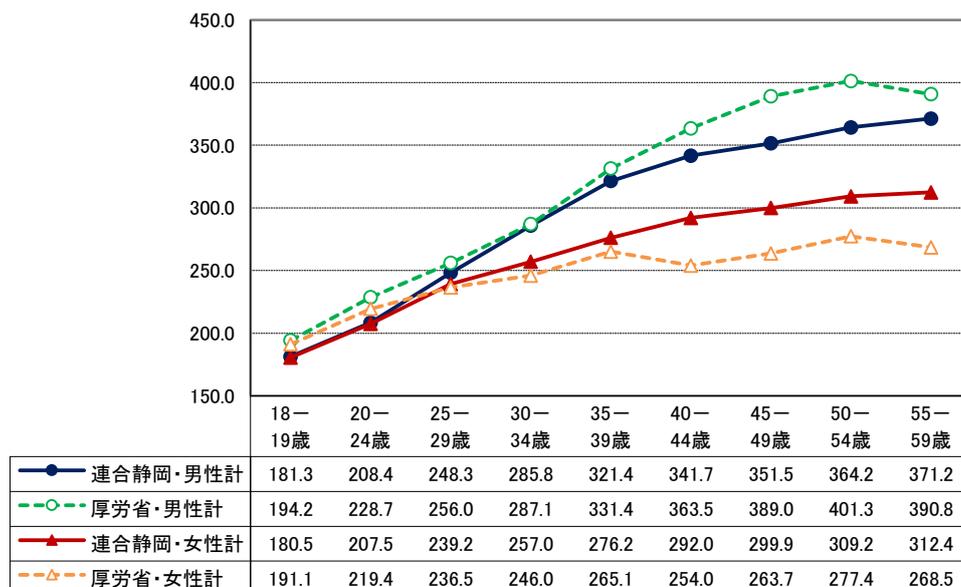
第Ⅲ－5図 年齢階層別平均賃金（単位：千円）

（左表：連合静岡調査、右表：賃金センサス）

	全産業計			対厚労省・男性		企業規模計		
	男性計	女性計				男性計	女性計	
18－19歳	181.1	181.3	180.5	93.4	19歳以下	193.0	194.2	191.1
20－24歳	208.2	208.4	207.5	91.1	20－24歳	224.6	228.7	219.4
25－29歳	246.4	248.3	239.2	97.0	25－29歳	249.0	256.0	236.5
30－34歳	280.9	285.8	257.0	99.5	30－34歳	272.6	287.1	246.0
35－39歳	314.9	321.4	276.2	97.0	35－39歳	312.0	331.4	265.1
40－44歳	334.1	341.7	292.0	94.0	40－44歳	329.6	363.5	254.0
45－49歳	342.5	351.5	299.9	90.4	45－49歳	345.7	389.0	263.7
50－54歳	353.3	364.2	309.2	90.8	50－54歳	359.1	401.3	277.4
55－59歳	361.4	371.2	312.4	95.0	55－59歳	350.0	390.8	268.5

出所) 厚生労働省『令和5年賃金構造基本統計調査』

注) 静岡の数値、企業規模計は10人以上、金額は所定内給与額



3. 業種別・製造業の場合

第Ⅲ-6図は、製造業に着目し、年齢階層別に平均賃金額を整理（左表：連合静岡調査、右表：賃金センサス）したものである。男性の場合、連合静岡調査（平均年齢：40.1歳、平均勤続年数：16.9年、平均賃金額：318,084円）と賃金センサス（同：43.7歳、同：15.7年、平均所定内給与額：342.9千円）とでは、40代後半や50代前半層で差が大きくなっている。

なお、賃金カーブの傾きは、男女ともに30代後半層までは概ね同水準で推移しているが、40代前半層から徐々に差が開き始めている。

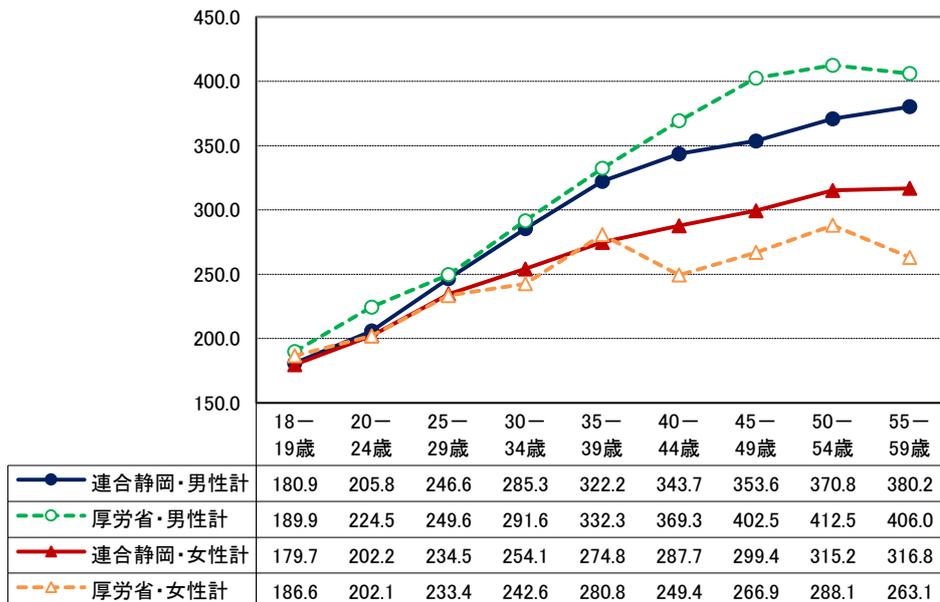
第Ⅲ-6図 年齢階層別平均賃金・製造業（単位：千円）

（左表：連合静岡調査、右表：賃金センサス）

	製造業計				対厚労省・男性		製造業計		
	男性計	女性計	男性計	女性計					
18-19歳	180.6	180.9	179.7	95.3	19歳以下	189.0	189.9	186.6	
20-24歳	205.0	205.8	202.2	91.7	20-24歳	218.0	224.5	202.1	
25-29歳	244.4	246.6	234.5	98.8	25-29歳	246.1	249.6	233.4	
30-34歳	280.9	285.3	254.1	97.9	30-34歳	282.5	291.6	242.6	
35-39歳	316.7	322.2	274.8	97.0	35-39歳	323.5	332.3	280.8	
40-44歳	336.6	343.7	287.7	93.1	40-44歳	345.1	369.3	249.4	
45-49歳	344.9	353.6	299.4	87.8	45-49歳	372.6	402.5	266.9	
50-54歳	360.9	370.8	315.2	89.9	50-54歳	388.3	412.5	288.1	
55-59歳	371.2	380.2	316.8	93.6	55-59歳	377.0	406.0	263.1	

出所) 厚生労働省『令和5年賃金構造基本統計調査』

注) 静岡の数値、企業規模計は10人以上、金額は所定内給与額



参考 非正規社員組合員の賃金

以下では、今回調査で集約された非正規社員の賃金実態について簡単に整理しておく。

集計対象（49 組合）となった非正規社員組合員数は 16,369 人（平均年齢：53.4 歳、平均勤続年数：7.0 年、平均賃金額：139,277 円）である。

上記のうち、男性（3,848 人）は、平均年齢が 54.3 歳、平均勤続年数が 11.3 年、平均賃金額は 180,130 円である。このうちの 6 割強にあたる 2,477 人は 60 歳以上層であり、その多くは再雇用社員（再任用職員など）が占めているものと思われる。一方、女性（12,521 人）の平均年齢は 53.2 歳、平均勤続年数は 5.7 年、平均賃金額は 126,722 円である（60 歳以上層は 4,288 人、女性全体の 3 割強）。

なお、集計対象組合の業種区分は、製造業が 1,330 人（男性：1,110 人、女性：220 人）、交通・運輸業が 494 人（同：431 人、同：63 人）、商業・サービス業が 14,545 人（同：2,307 人、同：12,238 人）となっており、ほぼ 9 割は商業・サービス業（商業・サービス業の 8 割強は女性）である。

賃金階級別に人員分布をみると、男性では 7～8 万円台が最も多いが、16～18 万円台や 29 万円台も相対的に多く、分散している（補論-1 図）。一方、女性でも 7～8 万円台が際立ち、その後に 15～17 万円台が続いている。

非正規社員の賃金調査に際しては、賃金額のみならず、勤務日数や勤務時間、賃金の支払い形態などの実際の勤務実態、処遇条件に加えて、世帯構成や就業調整の有無など、対象者の属性把握も不可欠である。

補論-1 表は、年齢別、勤続年数別に平均賃金額をみたものである。

補論-1 図 賃金階級別人員分布（タテ軸：万円、ヨコ軸：人数）

